595-370
12005015275567
595
370

北海道の山岳

（登山案内）

晴林堂版

107

北海道の山岳

（登山案内）

帝國圖書館藏

1931

晴林堂版

編者

（五十音順）

井田清
坂本直行
澤木三郎
須藤宣之助
館脇操
田中三晴
山縣浩

595-370

序

近時に至るまで人間の勝手なる振舞を受けずに遺されたる土地、そして年の半程は冬の蔽ふその土地に培はれた草木、海は黝ずむで寒く、野には霧が這ひ漂ふ、また廣大なる森には斧鉞の跡も無く、山は恰もその核心をなすが如くに、靜かに息づきながら冥想に耽つてゐる。一體北海道の自然には著しい風韻があると思ふ。その海と野と森と山とのなす四部唱には獨自の調律を帶びてゐる。そしてその主調をなすものは原生的な音色だ。赤裸々な美と力と自由との交響樂である。それは又あくまでに荒寥として素朴なる魂の歌でもある。放膽無礙なる活動に心戰く者は此の

大自然の懐の中に、必ずや清新なる心の故郷を發見するであらうことを信ずる。

凡そ山岳案内書の刊行は困難中の困難なるものであらう。多大なる經驗知識と努力とを俟つて始めて可能である。本書の編者は皆權威ある先驅者達である。今その豐富なる蘊蓄を蒐錄して公刊せらる。山を愛する者にとりて缺くべからざる好著であるのみならず、また感謝すべき賜物でもある。

昭和六年七月

槇　有　恒

はじめに

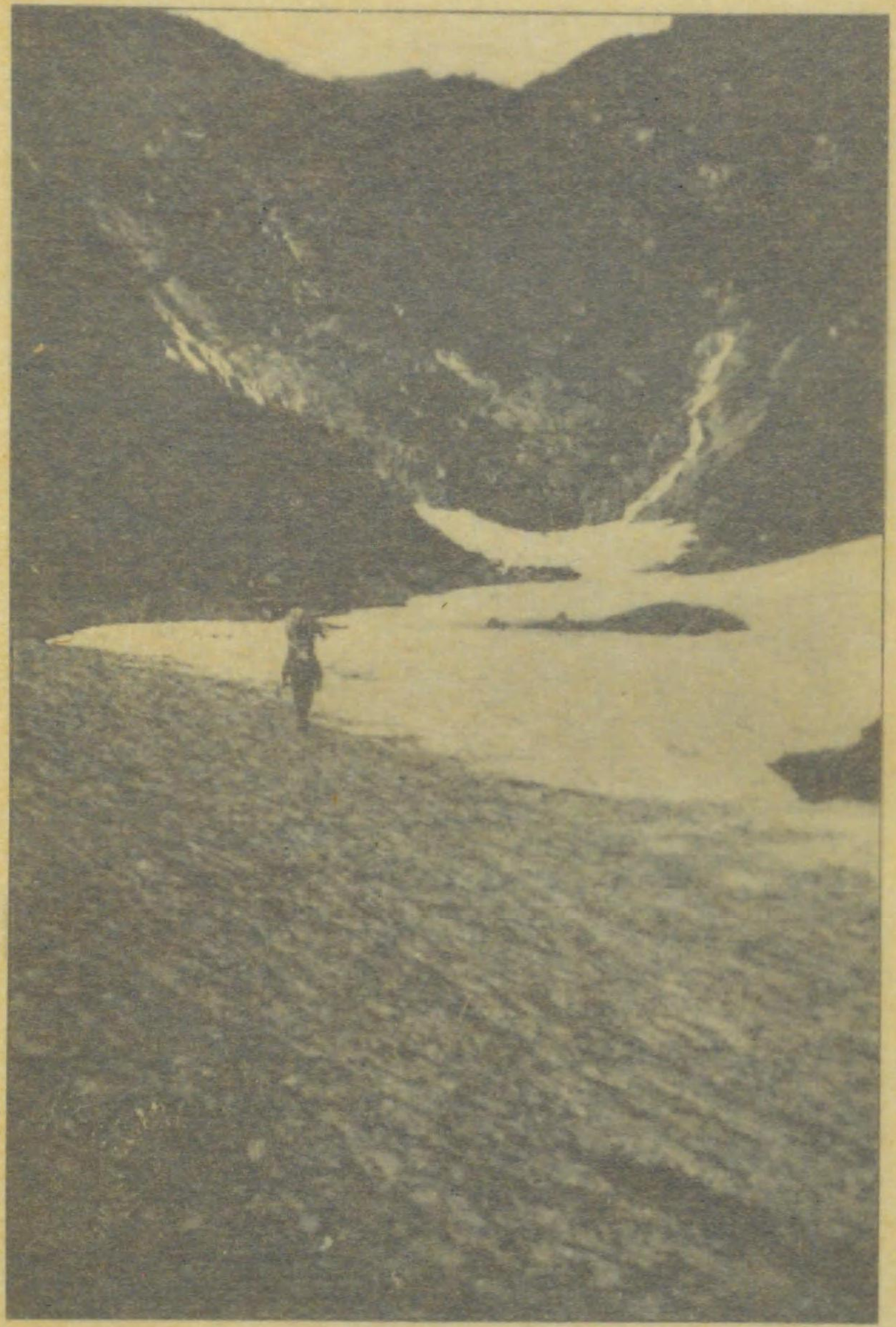
津輕の瀨戸。　宗谷の瀨戸。

このふたつの海峽に境せられた北海道の風物。未だ蝦夷の日よりの面影を秘め、輪廓線の單一さと相伴ふ雄大なる地勢のもとに、特有なその鄕土を展開してゐる。

北海道の自然物で最も注目を惹くのは、未だにこゝに殘されてゐる原始相の風物である。大地創造の美のかをりである。しかも自然を對照としての觀賞は末梢神經的のものでなく、豪宕なる心と力を共にしてのはたらきかけである。

北海道の登山史はなほ若く、所謂奧蝦夷の山々が人々の眼前に明かにくりひろげられてから、二十年の日を出て居ない。そして先住民族のアイヌが、ゆたかな山の幸(サチ)をたづねてゐたのも、現代に遠からぬ如實の物語りである。

さあれ、日高の山脈(ヤマナミ)深く、或は石狩奧山盆地、或は石狩、音更(オトフケ)の水源(ミナカミ)へ、ひとたび、登山黎明が來てからは、急劇なる登山方面の進展を見、未踏破の記錄が漸時世に出されるに到つた。かくて今



や本道山岳主要登路の登攀を大體終りたるも、未だに此等の山岳に關する纏りたる登山案内書を見出さず、本州に於ける此の種の著書多きに比し甚だ心寂しきを覺ゆ。こゝに於て自分は前掲の數氏と共に、その足跡をたづねて、こゝに一書をおくり出さうとするのである。

◇

稿を草するにあたり、種々貴重なる資料を貸與せられ、又尠からぬ助言を與へて下さつた、北大文武會山岳部の各位に、深厚なる謝意を表すると共に、序文を寄せられし槇有恒氏に深甚なる感謝の意を捧げる。

昭和六年七月

晴林堂主誌

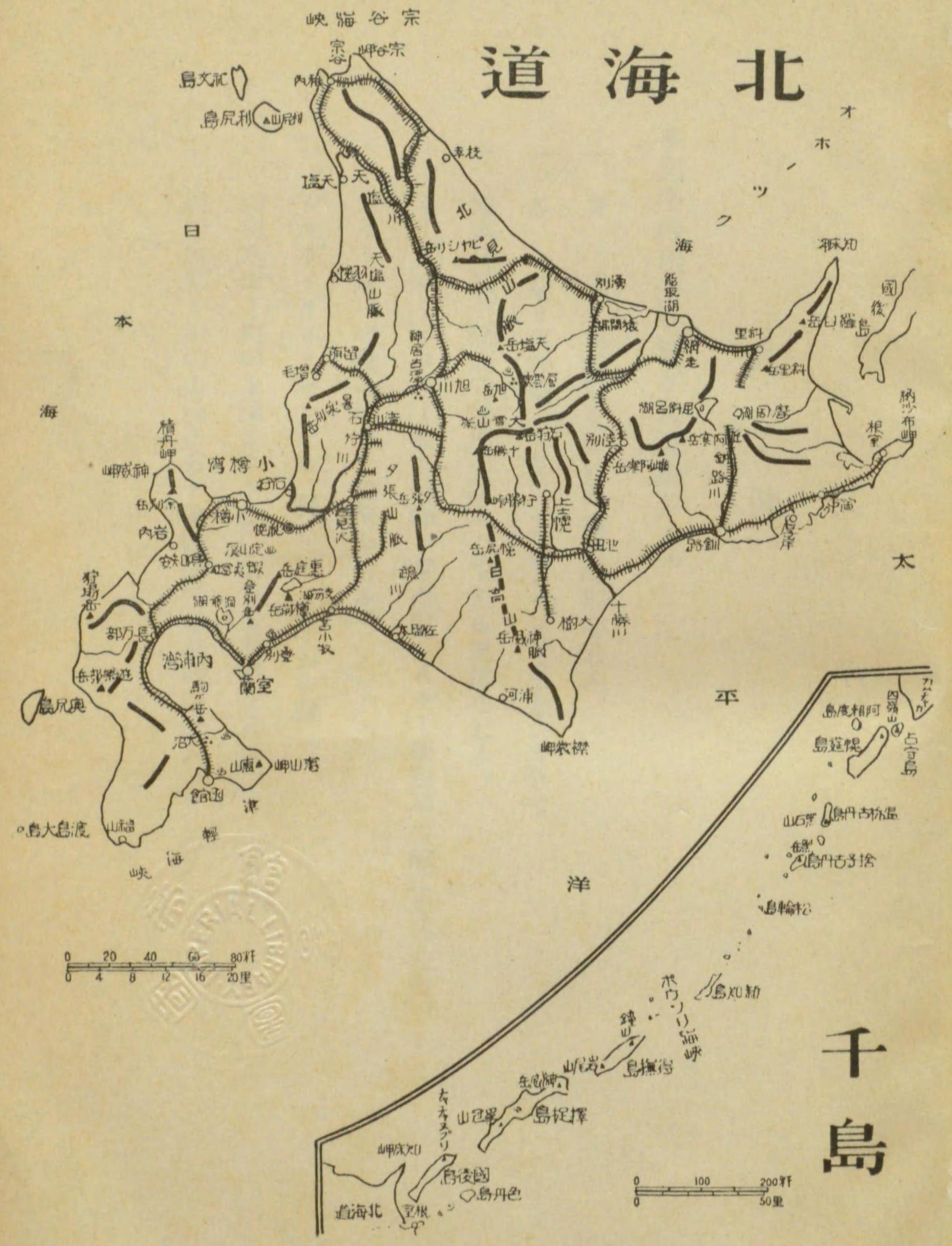
や本道山岳主要登路の登攀を大體終りたるも、未だに此等の山岳に關する纏りたる登山案內書を見出さず、本州に於ける此の種の著書多きに比し甚だ心寂しきを覺ゆ。こゝに於て自分は前掲の數氏と共に、その足跡をたづねて、こゝに一書をおくり出さうとするのである。

◇

稿を草するにあたり、種々貴重なる資料を貸與せられ、又尠からぬ助言を與へて下さつた、北大文武會山岳部の各位に、深厚なる謝意を表すると共に、序文を寄せられし槇有恒氏に深甚なる感謝の意を捧げる。

昭和六年七月

晴林堂主誌


北海道
千島
宗谷海峡
日本海
オホーツク海
太平洋

凡例

本文中の用語を簡單に說明する。

一、夏　期＝積雪期を除いた他の時期を云ふ。

一、冬　期＝積雪期（大體十二月頃より五月頃迄）を云ふ。

一、標高尾根＝標高の數字の記入してある尾根を云ふ。

一、シーデポー＝スキー登山の際、雪が堅くスキー使用不可能になつた時、スキーを一時殘しておく場所を云ふ。

一、シユタイグアイゼン＝金樏（カナカンジキ）　ザイル＝綱

一、川の右岸＝川の上流より下流に向つて右側を云ふ。

一、川の左岸＝川の上流より下流に向つて左側を云ふ。

目次

總論……一

山岳各論

南部の山岳……七

駒ケ岳……七

太櫓岳……一〇

遊樂部岳……一〇

狩場山塊……一三

蝦夷富士附近の山岳……一七

蝦夷富士……一七

ニセコアンヌプリ……二四・二九

岩雄登……二五・三〇

ワイスホルン……二五

チセヌプリ……二六・三二・三四

日國内岳……三三

岩内岳……三四

雷電山……三四

積丹半島の山岳……三六

積丹岳・余別岳・ポンネアンチシ山……三七

小樽赤岩附近……四二

札幌近郊の山岳……四七

砥石山……五一

百松澤山……五三

烏帽子嶽・神威嶽……五六

迷澤山……五八

手稻山……六〇

奥手稻……六三

遙山……六六

天狗山……六八

觀音岩山……六九

朝里嶽……七〇

白井嶽……七四

余市嶽……七五
天狗嶽……七八
無意根山……八〇
喜茂別岳……八一
漁嶽……八三
空沼嶽
狹薄山……八五
札幌嶽……八八
春の山歩き……九〇

洞爺湖及び支笏湖附近の山岳……九一

洞爺湖……九一
有珠山……九二
支笏湖……九四
樽前山……九五
風不死岳……九八
惠庭嶽……一〇〇
オコタンペ湖……一〇二
徳舜瞥山
ホロホロ山……一〇四

オロフレ山
登別山……一〇七

增毛山塊……一一〇

暑寒別岳……一一一
群別山
知來岳……一一五
雄冬山
濱益御殿
濱益嶽……一一六
武好驛遞及び附近の山道……一一七
春の山歩き……一一八
惠岱嶽
雨龍沼……一一九

大雪山彙……一二三

黑岳……一二六
北鎭岳……一三〇
愛別岳
比布岳
永山岳……一三三

旭岳
熊ヶ岳……一三五
北海岳……一三八
白雲岳
赤岳
烏帽子岳……一四〇

石狩山脈……一四三
石狩岳……一四四
春のゾムメルシーによる登山……一六〇
ニペソツ山……一六三
ウペペサンケ山……一七七
音更山
ユニ石狩岳……一七九
三國山……一八三
北見富士……一八七
武利岳
武華山……一八八
支湧別岳……一九四
屏風嶽……一九六
ニセイカウシュペ山……一九六

北見峠
チトカニウシ山……二〇一
天鹽嶽……二〇五
クマネシリ嶽
西クマネシリ嶽
ピリベツ嶽
南クマネシリ嶽……二〇七
東ヌプカウシ山
西ヌプカウシ山
ペトウトル山
然別沼……二一四

十勝山脈……二一八
十勝岳……二二一
上ホロカメットク山
境山……二二七
富良野岳……二二九
十勝岳吹上溫泉を中心とする冬期登山……二三〇
十勝岳吹上溫泉を中心とするスキーゲレンデ……二三八
佐幌岳……二四三

美瑛岳……二四三
美瑛富士……二四五
オプタテシケ山……二四七
トムラウシ山……二五〇
化雲岳……二五一
忠別嶽
平ケ岳……二五三
忠別川……二五七

利尻島及び禮文島の山岳……二五九
利尻山……二五九
禮文岳……二六二

夕張山脈……二六三
蘆別岳……二六四
夕張嶽……二六九
屛風山……二七四
蘆別岳より夕張嶽への縱走……二七五
鉢盛山……二七五
吉凶岳……二七六

日高山脈……二七七
日高山脈に於ける山名に就いて……二八一
芽室岳……二八六
劍山
キウサン岳……二八九
美生岳……二九〇
戸蔦別岳……二九四
幌尻嶽……二九八
札内嶽
エサオマントツタベツ岳
カムイエクウチカウシ山……三〇三
神威嶽……三一二
春別山
ピリカヌプリ……三一六
樂古岳……三一八
十勝岳……三二〇
廣尾嶽……三二〇
イドンナップ岳……三二一

阿寒地方の山岳……三二六

阿寒湖……三二七
雌阿寒岳
阿寒富士……三二八
雄阿寒岳……三二九
下ノ湖
上ノ湖……三三〇
屈斜路湖
アトサヌプリ山……三三一
摩周湖
カムイヌプリ嶽……三三二
藻琴山……三三三
知床半島の山岳……三三四
海別嶽
遠音別岳……三三六
羅臼岳……三三八
硫黄山……三四一
知床岳……三四二
斜里岳……三四五
千島列島の山岳……三四七

千島列島山岳登攀に對する準備……三四九
國後島……三五二
擇捉島……三五五
色丹島……三五五
得撫島……三五六
新知島……三五七
計吐夷島……三五七
松輪島……三五七
溫禰古丹島……三五八
幌筵島……三五八
阿頼度島……三五九
附錄……三六一

寫眞

口繪　山縣浩
赤岩山（小樽附近）　山縣浩
百松澤山頂上より西方を望む（札幌近郊）　篠原齊
春の天狗嶽（札幌近郊）　アーノルド・グブラー

一月の暑寒別岳　（増毛山塊）　須藤宣之助
北鎮岳より比布岳（左）愛別岳（右）を望む　（大雪山彙）　山縣浩
冬の富良野岳　（十勝山脈）　和久田弘一
晩春の上ホロカメットク山　（十勝山脈）　大谷雄三郎
利尻富士　（利尻島）　大和正次
蘆別岳附近　（夕張山脈）　坂本直行
トムラウシ山より石狩岳ニペソツ山を望む　（石狩山脈）　山縣浩
札内嶽よりカムイエクウチカウシ山を望む　（日高山脈）　同
札内嶽より見たるエサオマントツタベツ岳　（日高山脈）　同
羅臼岳より南方を望む　（知床半島）　山縣浩
新知島プロトン灣　（千島列島）　德永芳雄

圖版

北海道・千島縮圖　赤岩山…(1)　赤岩山…(2)
蘆別岳　十勝連峰冬期登山登路概略圖　日高山脈登路概念圖

總論

總　論

「山　系」　北海道本島は略々菱形をなしてゐる。その菱形の南北を結ぶ對角線が、地形から見た北海道中央山脈である。この山脈は、太平洋沿岸の南端、日高襟裳岬附近から、オホーツク海岸の北端、北見宗谷岬附近に亙り、長さ四〇〇粁、本道の脊梁を形成してゐる。

この脊梁とも言ふべき中央山脈は、北より北見山脈・天鹽山脈・石狩・大雪兩山彙・夕張山脈・十勝山脈及び日高山脈の諸山脈にわかたれる。そして北海道本島の最高峰、二二九〇米の旭岳から一〇〇〇米内外の山々に至るまで、その登山の對象となるもの、實に一百有餘座を數へる。しかも近年登山の勃興と共に、その興味の中心となつた秘境は、多くこゝに存在してゐる。

中央山脈を境として、その東部には千島火山脈が連亙する。この火山列は、國後島より知床半

島を經て本島に進み、西して南北に擴り、十勝山脈に入つてゐる。本火山列中、知床半島の諸山は最も原始相をそなへ、阿寒を中心にしては、阿寒・屈斜路・摩周等の湖を有し、附近の山岳と相俟つて明媚なる風光をうたはれ、石狩岳連山は奥秘境として處女林の上に聳え、十勝連嶺は冬期登山に嘖々たる名聲がある。

中央山脈より西部は、石狩凹地帶として、日本海石狩沿岸より、膽振苫小牧附近の太平洋岸の一帶をなしてゐる。その北方は增毛山塊となつて濱益岳・暑寒別岳等を擁してゐる。そしてこの麓には雄冬山道を中心に、武好附近の如きなつかしい幾つかの峠がある。

南方倶知安盆地に聳える蝦夷富士（一八九三米）は、盆地西方の岩雄登附近の山々より、（樽前山・支笏・洞爺湖附近の山と、フツプシリヌプリ・惠庭岳・及び噴火灣の駒ヶ岳・有珠山と共に）後志火山彙を構成して居る。岩雄登附近の山々は、シーグレンデとして隨所に美しき白銀の斜面を持ち、又標高は低くとも、駒・有珠・樽前の如きは、典型的な火山としてその名を知られてゐる。

「氣候」　西海岸を除いては、オホーツク海及びベーリングから西太平洋を南下する寒流

に洗はれ、冬期には尚北滿洲よりの寒冷なる氣候にも襲はれてゐる。本州中部に於て二〇〇〇米以上に出てくる偃松が北千島海岸に叢生するが如き著しい植物の關係よりしても、或はまた、本道の山岳全般に渉る氣候的な關係から見ても、本道に於ける登山への性質はその標高に約一〇〇〇米を加へて、然る後、本州に於ける山岳に比して考ふべきものであらう。

こゝに參考のため、岳麓各地の氣溫を表示してみると次の如くになる。

北海道の平均氣溫（攝氏）

測候所＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
函館	(−)二・一	(−)三・七	一・七	六・九	一一・五	一四・五	一九・五	二一・八
壽都	(−)二・一	(−)三・七	一・一	六・二	一〇・六	一四・〇	一九・二	二一・〇
室蘭	(−)二・〇	(−)三・二	〇・八	五・八	一〇・一	一三・六	一八・七	二一・六
札幌	(−)五・二	(−)六・一	(−)〇・六	五・七	一一・六	一四・七	二〇・五	二一・六
羽幌	(−)三・九	(−)五・九	(−)〇・九	五・〇	一〇・三	一四・〇	二〇・一	二一・〇
旭川	(−)九・〇	(−)九・二	(−)二・四	四・六	一一・八	一五・六	二一・六	二一・八
浦河	(−)二・七	(−)三・九	〇・〇	四・五	九・一	一二・二	一八・八	二〇・八
帶廣	(−)九・九	(−)一〇・二	(−)二・〇	五・六	一一・〇	一三・一	一八・四	二〇・七
釧路	(−)六・三	(−)八・二	(−)一・六	三・五	七・三	一〇・一	一五・一	一八・七
根室	(−)三・五	(−)六・二	(−)一・七	三・五	七・八	九・三	一三・八	一七・五
網走	(−)五・二	(−)八・三	(−)二・八	三・八	一〇・〇	一二・九	一八・六	二〇・九

九月	一九・五	一九・四	一九・四	一八・五	一八・七	一七・五	一九・二	一七・四	一六・九	一七・四	一八・〇
十月	一三・八	一三・七	一三・二	一二・一	一二・一	九・五	一三・六	一〇・一	一〇・七	一三・二	一二・五
十一月	六・三	五・五	六・三	四・四	四・三	二・四	六・〇	三・二	四・四	五・八	三・六
十二月	(−)一・二	(−)一・九	(−)一・三	(−)三・八	(−)三・〇	(−)六・〇	(−)一・六	(−)七・七	(−)四・三	(−)一・九	(−)四・〇
年	九・一	八・六	八・五	七・八	七・七	六・六	七・九	五・八	五・五	六・二	六・五
最高	三〇・三	二九・三	三〇・五	三三・七	三三・九	三五・九	三〇・三	三四・四	二六・四	二九・〇	三四・五
最低	(−)一三・九	(−)一一・四	(−)九・五	(−)一九・五	(−)二四・二	(−)二三・二	(−)一四・一	(−)二九・五	(−)二三・九	(−)一五・一	(−)二〇・八

「特徴」　北海道の夏期登山は一言にして言へば先づ歩きにくい方であらう。これは世に有名なる山の他は登路のないことに起因する。しかも一七〇〇米以上にならないと偃松が矮性とならず、山岳地帯には偃松群落が良好に發達してゐる所が多いので、特に縱走に困難を感じ勝である。又一〇〇〇米前後の所は、尾根でも澤沿でも、俗稱ネマガリダケの繁茂が猛烈で行程は阻まれ勝である。故に夏期登山の登路は多く澤歩きがその行程の大半を占め、從つてこれが本州の山にくらべてひとつの特徴になる。

北海道の冬期登山は、本州に優るとも劣るものはあるまい。これは雪質と隨所に有する變化ある斜面に起因してゐる。しかも夏期登山の障害であるハヒマツ・ネマガリダケは雪下に沒し、殊にネマガリダケのみの群生せる所は反つて良好なるゲレンデとなることが多い。雪崩は雪質と地形の關係から比較的に少ない。森林帶に入つてからのスキーの壯快さは、恐らく本道山岳が有する大きな一つの魅惑であらう。ひとつ、こゝに注意したいのは冬の澤を登路とした長時日を要する冬期登山であるが、これは單なるスキー滑走ではない故、計畫の上にも、亦技術の上にも、深甚なる考慮が拂はれたい。又冬の準備の整つてゐる山小屋は札幌附近に存在するのみである。尚山小屋のない地方に於ては、屢々造材小屋を利用することがある。かゝる場合は是非登岳準備にあたり該地方に照會すべきである。

北海道には「春山」と言つて、特に面白い春の山歩きがある。四月半ばすぎから山の雪は所謂「ザラメ雪」となり、そして五月の半ば頃迄は、ゾンメルシーを使つて、一年中で最も樂な山歩きが出來る。この頃になれば、冬と異り天氣も定り野營も亦容易となり、夏は困難な尾根傳ひも氣樂に出來る。しかし融雪期であるから、澤は夏の樣な考へでは渡渉不可能である。渡渉には充分注意を拂ひ、出來るだけこれを避ける樣に計畫すべきである。

あたゝかな明るい陽をうけた春の山旅、これは北海道の山々が登山者におくつてくれる、ゆたかなおくりものゝ一つである。

各論

南部の山岳

南部の山岳とは説明の便宜上、位置の關係からしてこの樣な總括的の名稱を以つて北海道の南部に散在する山々―駒ヶ岳・太櫓(フトロ)岳・遊樂部(ユーラップ)岳・狩場山塊―を含めた。

駒ヶ岳がその麓の大沼と共に本道は勿論、本州の人々にも普くその名を知られてゐるに反し、他の山々は極く一部の登山者にのみ知られてゐるに過ぎない。概して標高も低く、火山である駒ヶ岳を除けば何れも頂上迄ブッシュで夏期の登山には興味が少ない。しかし冬或は早春には仲々面白い山旅が出來る。

駒ヶ岳（一一四〇米）

渡島國　地形圖　廿万―函館・室蘭
五万―駒ヶ岳・大沼公園

津輕海峽を越えて、渡島半島に近づくや、先づ山岳としての風貌をそなへ視野に入り來るは、この駒ヶ岳である。トルソの樣な風格を具へた活火山。大沼の風物も、この駒ヶ岳あつて、始めて立体的な風光美を持つのである。

登山の時期及び登路

夏期

火山の活動期を除けばいつでも登山が出來るが、若し願ふなら早春五月、若しくは晩秋十月の頃を撰ぶのが好い。「こまがたけ」といふ函館本線の小さな驛から登る。

麓の逕は大体指導標によつて求められる。燒山の登山口から「馬ノ脊」迄は立派な登山路がある。「馬ノ脊」から頂上の岩を登る。その附近は、岩のつきも惡いから、敢へて三角標の頂きを求めるには當らない。地獄谷を探るには「馬ノ脊」から東へ行けば好い。特に岩を登る爲めには「馬ノ脊」から北に眞直ぐ尾根傳ひに行き、岩を登つてそれから更に北、砂原岳に向ふ尾根通し

に歩くのである。しかしこの尾根傳ひは落石多く足場もよくないから注意を要する。

噴火灣の海の色や、その海岸線を樂しみながら、一日をこの山に費す事は確に心樂しい行樂である。

頂上から北方砂原村へ、或は大沼へ歩く事は何れも望み次第であるが、砂原村へ下るのは「一日の行樂」としてはあまりこのましくない。

「こまがたけ」驛より駒ヶ岳登山小屋（石室）まで約二時間半、登山小屋より「馬ノ背」までは約一時間で、地圖上の逕に依る。尚「馬ノ脊」から頂上までは一時間餘、砂原岳へは頂上より一時間餘を要する。

歸路は「馬ノ脊」より登山小屋を經て「こまがたけ」驛まで約二時間半。或は「馬ノ脊」の東から大岩(約一時間餘)に出で、大沼驛に至るも可。湖にはモーターボートの便あることもある。

飲料水がないから携行を忘れぬ樣注意を要する。

冬期

登路は夏期登山路によれば好い。スキー行にはシュタイグアイゼン、ピッケル、ザイル等を必要とする。殊に頂上の岩は氷結の爲め登り難い。尙「馬ノ脊」より登山小屋附近の斜面は降雪量少い時は眞冬と雖も、スキー滑降の爲めには不愉快である。岩石の露出、斜面の硬化は特に注意すべき點である。

太(フト)櫓(ロ)岳（一〇五三・四米）

遊(ユー)樂(ラツ)部(プ)岳（一二七五・五米）

渡島・膽振・後志 國境　　地形圖　廿万―室蘭　五万―遊樂部

遊樂部岳（別名見市(ケンイチ)岳）・冷水(ヒヤミヅ)岳・太櫓岳等は低い乍らも山らしい一個の山塊を形作つてゐる。しかも東に太平洋、西に日本海を分つ渡島半島北部の脊稜ともいふべきこれらの山々は、從來、登山の對象としてよりは、熊狩の名所としてその名を知られてゐる所である。

登山の時期及び登路

夏期

函館本線八雲驛下車、驛より遊樂部川上流（約十六粁）セイヨウベツ川との分岐點附近にある孵化場まで乘合自動車の便を藉り（二圓位）、それよりセイヨウベツ川に沿ひ若松に至る路を約八粁上に行くと、南方の太櫓岳より來る澤がセイヨウベツ川に合して居る所がある。その附近にて露營。

圖上では孵化場より上(かみ)のセイヨウベツ川沿ひに家屋の符號があるが、これらは一、二軒あるのみで、その符號程多くの家はないから、どうしても露營の用意を必要とする。

次の日はその太櫓岳より北に下つてゐる澤を登るのであるが、この登路に就いては夏期に試みられた記錄が明かでない。太櫓岳頂上まで豫定としては上り約三時間、下り二時間と見積つたら好からう。尙遊樂部岳への登路としては、頂上より北に流れる左俣川を溯る方が、見市川を溯るよりも有利であらう。

冬期

夏期と同様にして孵化場に至り（雪多き時は馬橇に依る）若し時間の餘裕があれば、夏期に述べた露營地附近にて露營した方がその後の行程に有利であるが、雪・天候・時間等の都合によつて孵化場に一泊した時は、その翌日、夏期の露營地附近に露營し、太櫓岳への登路に少しなりともスプールをつけて置いた方が好い。

冬期の登路は夏期の登路として述べた澤の東側の、割合に緩い平たい尾根を登り、頂上から北に約五〇米位下つた肩の所に出る。露營地より約四時間半にして頂上に達する。

太櫓岳から遊樂部岳に至るには、太櫓岳の頂上よりその南の尾根を南下して、標高一一七四米に至り、更にその西方の尾根を傳ひ遊樂部岳頂上に至るのである。この往復に約四時間餘を見積らなければならない。

雪質に依つて太櫓岳頂上に達する前に、既にスキーを脱いだならば、遊樂部岳に行く爲めには少くとも太櫓岳頂上まではスキーを運んで行かなければならない。それは太櫓岳からその南の一

一七四米に行く間、約二〇〇米の下りと、三〇〇米の上りがあるから、雪質に依つてはその往復にスキーを使用するとしないとで非常な時間的相違を生ずる。それ故にスキーを太櫓岳頂上まで使用出來た時も、輪樏の携帶を忘れてはならない。

尙、露營地より太櫓岳頂上を經ずに、それの五〇〇米許り下を東に卷き、遊樂部川上流を渡り一一七四米に出で、そこから西へ尾根傳ひに遊樂部岳頂上に至る登路も考へられるが、太櫓岳の東側は傾斜が急であるから、此の登路は前者に比して困難であり且つ時間的にも損である。

嘗て此の登路は試みられたが、斜面の急であるのと樹木の密である爲めに引返すのやむなきに至つた。

狩場山塊（一一七〇—一五二〇米）

後志國　　地形圖　　廿万—岩内・室蘭・久遠
五万—壽都・狩場山・大平山

冬、羊蹄山や青山・新見温泉附近の山々から見て東南に當り、肩を張つて白い山容を展げてゐる

る山塊が狩場山である。この山塊は海に近い憾みはあるが仲々立派で、羊蹄山を除くとその高さから言つても本道南方の盟主である。

狩場山（一・五二〇米）最も高く、フモンナイ岳（一三三七米）東狩場山（一三一九米）前山（一二六〇米）オコツナイ岳（一一七〇米）等が、その翼手をなしこの山塊を作つてゐる。そして交通が不便である爲め、今迄比較的人々の注意をひかなかつた。

登山の時期及び登路

夏期

函館本線黒松内驛より壽都線に乘換へ壽都驛に下車。町の先の辨慶岬を西にかはし海岸沿ひに政泊・歌島・本目・大平等の漁村を經て永豊に泊る。壽都から此處まで約二十六粁で、若し幸に壽都から發動機船に乘船する事が出來たら永豊より約六粁南の千走迄行ける。しかしこの發動機船は定期でなく、殊に冬期間は凪の日にしか出ないから餘り期待は出來ない。

次の日は千走の漁村を過ぎてから路は初め少しばかり千走川に沿ひ、ゆるやかな上りとなる。

賀老川の橋を渡つて最後の急な斜面を登りきると、廣い高地に出る。そこに賀老の驛遞がある。永豊から約十六粁。

翌日は西南の廣き臺地、丹羽に至る道を經て、狩場山より東派する標高尾根北側の澤を登る。この澤は容易であると聞くも未だ明かな記錄がない。

冬期

賀老迄は夏と同じであるが、それより先、二つの登路がある。

(一)は、東狩場山を經て尾根傳ひに狩場山の頂上に至る。

(二)は、狩場山より東派する標高尾根を傳つて直接狩場山頂に至る。

兩路とも登高は容易であるが、海岸に近い爲め風の影響を非常にうけ蒼氷が出來てゐるから、八〇〇米から一〇〇〇米附近の適當な個所をシーデポーとして登る。賀老より狩場山頂上迄兩路とも略同時間で約六時間餘を要す。

東狩場山を經て、狩場山に至る即ち、(一)の登路は天候さへ良好であれば、(二)の登路より好い。

四月の末か五月の初め頃、ゾンメルシーでこれを瀨棚の方へ越してみるのも仲々面白い事と思ふ。

注意事項

壽都より千走までの發動機船の便、或は馬橇の便を豫め考慮しないと、この山歩きは困難なものともなる。

蝦夷富士附近の山岳

倶知安高原をめぐる山々は、早くからスキー地として知られてをり、蝦夷富士・岩雄登・ニセコアンヌプリ・チセヌプリ・目國内岳などを並立せしめてゐる。蝦夷富士を除く他の山々は夏山としては閑却され勝であるが、蝦夷富士は北海道の名山として、古くから登られてゐる。そして信仰的にも、科學的にも、又趣味的にも、仲々なにぎやかさをもつてゐる。而して尻別川を中心にして、これら山々が空に描く線は仲々優美で、車窓を通じ、倦かぬ四季の眺を旅人に送つてゐる。

蝦夷富士（一八九三米）

膽振國　地形圖　廿万—岩内
五万—岩内・狩太・倶知安・留壽都

一名後方羊蹄山、又はマッカリヌプリと稱す。獨立の舊火山で、中央高地、日高山脈の諸高峯を除いては之に匹敵するものなく、北海道南方（札幌以西南）の諸峯中の雄をなしてゐる。
函館本線は、狩太・倶知安驛間二時間餘、尻別川に沿ひ蝦夷富士の西から北の裾を廻つてゐる。車中よりも絶えずその富士型の秀麗な山容が眺められる。六合目附近まで黝い森林で蔽はれ、上部は比較的高山植物に富み、天然紀念物に指定されてゐる。頂上には周圍約二粁の噴火口がありその火口内には夏期にも殘雪がある。

登山の時期及び登路

夏期

登山口としては半月湖口と眞狩別口とあるが、普通は登降共に前者を撰び、眞狩別口より登ること尠く、只洞爺湖に向ふ旅行者が眞狩別口に降りるのである。半月湖は倶知安驛より八粁、比羅布驛より四粁の距離にあり、湖畔には登山事務所がある。事務所から一粁餘登ると鳥居の前に出る。その鳥居から尾根に登り森林帶に入る。森林帶は略々六合目で盡き、それより上は偃松と

岩の急坂となる。八合目から九合目あたりは最も急で、富士の胸突八丁に比すべき所である。頂上の火口壁から一〇〇米の下方、九合目附近に宿泊小屋がある。頂上は鼻先に仰がれ、又お鉢廻りをするには一時間程かゝる。湖畔から頂上迄約五時間、降りは約三時間で湖畔に着く。

冬期

冬期には半月湖口から登山するを可とし、湖畔事務所に一泊し、早朝出發する。蝦夷富士は附近の山々にくらべると、拔群の高さなので、雲を呼び易く、又その變化も急激であるから、恐ろしい吹雪を考慮しなければならない。概して午前中は天候の變化が著しくないから、出來得る限り午前中に頂上に達する様にすべきである。一度森林帶を拔ければ他の多くの山と異なり、岩蔭・尾根蔭・凹地・澤等の一時的避難所が全然ない。故に愈々森林帶を拔ける時には、よく天候を觀察して安心の出來ない時は躊躇せず引返した方が好い。そして又九合目の小屋は冬は全然使用すること不可能である。
登路は夏と殆んど同樣である。大体森林帶の切れ目（六合目附近）をシーデポーとするが、時

により七、八合目迄スキーの使用されることがある。森林帯の切れ目まで湖畔事務所より約三時間半、それより頂上までシュタイグアイゼンでの登りが約三時間を要す。そのシュタイグアイゼンでの登りが相當長いので疲勞が甚しい。下降は三時間強で湖畔事務所に歸着出來る。森林帯の上部から一・五粁程の間、調革(ベルト)狀の幅二〇〇米近い樹木のない斜面があり、實に勇壯なスキー下降が出來る。頂上より下山の際は疲勞が甚だしいので充分享樂出來ないから、一日餘裕がつけばこゝに又滑りに來ても愉快である。

五月は三合目附近からスキーが使用される。その登路及び所要時間は略々冬季に準ずる。又簡單な發掘道具を携帶し、初めから九合目の小屋に一泊する積りで、ゆつくり登るに越したことはない。小屋は比較的單時間に掘出せる。翌朝再び頂上に登るも好い。

注意事項

夏期の登山には湖畔事務所に宿泊することが出來、又人夫・食料等もそこで準備される。九合目の小屋は、七月より八月下旬迄は番人が居り宿泊出來る。春はこの小屋の使用を許可されるが、

寢具・食料・燃料の備付がないから適當な考慮の必要がある。

積雪期の登山にはスキーを脫いでから、シュタイグアイゼンなり輪樏を履いた方が好い事が屢々あるから、携行すると便利である。

青山溫泉附近の山

此處に總括された山の中には、ニコセアンヌプリ・岩雄登・ワイスホルン・チセヌプリ・目國(メクン)內(ナイ)岳・岩內岳・雷電山等が含まれ、これらの山々は、一一〇〇米から一三〇〇米の高さに過ぎず全山殆んど笹山である。そして尻別川を挾んで對岸の蝦夷富士が、眞黝な針濶混淆林を有するに比して、この山地には針葉樹が殆んど見えない。主なるは岳樺の林である。

近時、岩雄登・ニセコアンヌプリが、倶知安驛から登山團体に依り登られるやうになつた位で、その他は登山路なく殆んど登られてゐない。又澤歩きの面白味も少く、それに笹の多いあまり高

くない山なので、一般登山者には閑却されてゐる。しかし一日、二日の峠越しには、比較的面白いものがある。

その峠越えとして(一)新見温泉から七五八米の峠を越すもの、(二)馬場温泉からチセヌプリの西の峠を越して三角鑛山沼の縁を通るもの、(三)青山温泉から井上温泉、元山精錬所傍を通つて大沼・大谷地を通るものがあるが、この三者は何れも岩内港に降る。それ〴〵土曜日から日曜日にかけたピクニックとして、又捨てがたいものであらう。

一度冬になれば、そこは絶好のゲレンデに變る。白皚たる變化に富む斜面が到る所に用意されてゐる。笹は全く雪の下にかくされ、頂近くは岳樺の疎林で、壯快なスキー滑降が出來る。故にスキー地として名を出し、今は全國的に有名である。

山中には又温泉が多く湧出し、青山温泉を始として、宮川温泉・新見温泉・山田温泉・井上温泉・小川温泉等がある。就中、青山・井上・新見の三温泉は山に登るに最も便利な位置にあり、これらの温泉を中心として、それ〴〵樂な、愉快な一日行程のスキー登山が出來る。各温泉を出發點として一日行程の山を次に記すと、

一、井上温泉（ニセコ温泉とも云ふ）

ニセコアンヌプリ。岩雄登。チセヌプリ。ワイスホルン。

二、青山温泉

ニセコアンヌプリ。岩雄登。チセヌプリ。

三、新見温泉

チセヌプリ。目國内岳。岩内岳。雷電山。

參考すべき地形圖（五万分の一）は倶知安・岩内・島古丹・狩太等である。

井上温泉を出發點とするもの

井上温泉はニセコアンヌプリと岩雄登との間の溪の中、新山精錬所跡に位置し、三年前に始められた新らしい温泉宿である。倶知安町から道路がつけられ、その道路も改修されて、夏期は自動車が通ふと聞く。その道は元山精錬所への道を約八粁進み、三角點五九四米の出ツ張りを廻つて左に分れ、小さい流れに沿つてニセコアンヌプリの西北の中腹を巻き、ニセコアンヌプリと岩

雄登との廣い平つたい鞍部を越し、ニセコアンベツ川のだら〱した溪について温泉迄降る。

冬期はその道路に倶知安スキークラブで作つた指導標が木にうちつけてあるから、それに據つて登れば間違ひはない。少しスキーの上手な人であれば、元山精錬所に通じてゐるケーブルの通り眞すぐ登ると大分近い。そしてニセコアンヌプリの北に出てゐる標高尾根の六〇〇米附近からケーブルと別れて、前記の鞍部まで山腹を卷いて登れば好い。鞍部より温泉への下りは、谷が可成りだだつぴろいため、ガスのひどくかゝつた日など餘程注意しないと温泉がみつからない。倶知安町から温泉迄四、五時間かゝる。

ニセコアンヌプリ（一三〇八・五米）

ニセコアンヌプリは温泉の眞上に聳えてゐる。温泉から反對側の少し小高い所に登ると、三角點のある典型的なピラミツト型の頂が見える。それが夕陽に燃えて紫紅色に染まる時は、實に見事である。温泉側の大きな眞白な斜面は、針葉樹なく灌木が雪上僅かに頭を出してゐる位で、スキー滑降に適する。

ニセコアンヌプリに登るには、頂上の西端から最も温泉に近く下つてゐる尾根を登つても行けるが、その尾根はクラストして登り難い場合が多い。故に温泉を出發してから成べく左に大きく廻り、岩雄登とニセコアンヌプリとの鞍部近く迄進み、北向きの斜面を登る。そこはいつでも大抵雪がいゝから登り易く又降りも面白い。そして頂上の西端に出て、細くやせた高低のない稜を三〇〇米程傳つて東端の頂上に着く。温泉から頂上まで二時間餘、下降は一時間とかゝらない。

岩雄登（一一五四米）

地形圖によれば硫黄山とも書く。舊火山であつて、頂上には噴火口とも見られる左程深くない窪みがある。ニセコアンヌプリと相對する斜面は、岩がゴロ〱してゐるが多くは雪に蔽はれてゐる。温泉から一時間足らずで登れる。温泉の裏の小さな澤を登つて行つても好いし、又岩雄登とニセコアンヌプリとの鞍部の方から登つても大差ない。

ワイスホルン（一〇四五・八米）

この名は以前北大スキー部によつて命名され、現在でもこの名で通つてゐる。その名から想像されるか否か判らないが、端麗な山容をもち、頂上からは倶知安・小澤・岩内に向つて廣い緩い尾根が幾つも下りてゐる。

ワイスホルンへは一度、元山精錬所へ出て、すぐ裏の鳥居のある尾根から登り始め、尾根通りに歩いて頂上に着く。元山精錬所へ行くには、岩雄登とその西隣の小さな岩の頭との間の凹地を抜けて、ぢかに精錬所へ向つて飛ばした方が近い。溫泉から頂上まで約二時間半の見當である。

チセヌプリ（一一三四・五米）

地形圖に見られる如く土饅頭式の山である。だからどの方向から登つても同じ樣な格好に見える。チセヌプリへ行くには、初めは岩雄登鑛山への地形圖上の路をとり、國境線附近より一〇八二米の山に登つて、それからは略々郡境界線の通りに行く。チセヌプリの登りは非常に大きな斜面で、手前の瘤から見ると、とても山が大きく且つ遠く見えるが、その下まで降つて見ると案外近い。その登りに二、三十分かゝる。チセヌプリは一般にだゞつぴろいから、吹雪の際特に注意を要

す。この山も溫泉より約二時間半の行程である。

以上は井上溫泉を中心として、一日行程の山々を略述したものである。尚此處は登山そのものよりもスキーの享樂に適した所であるから、比較的愉快に遊べる斜面を（尤も何處も滑降には不自由なく、その優劣はきめられないが）拾つて見ると

溫泉のすぐ裏の小さな澤。ニセコアンヌプリの北斜面。チセヌプリへの下り。チセヌプリの東斜面。

等が擧げられる。

又初心者の練習場としては、溫泉の近くにいくらでも理想的な斜面がある。

井上溫泉から下山の際天候のよい時は、ニセコアンヌプリを越して比羅夫に降りるか、ワイスホルンを越して小澤に降りるか、どちらを撰んでも面白いと思ふ。（次項參照）

この他、ニセコアンヌプリとワイスホルンへは、札樽地方から土曜、日曜にかけての登山が多く

行はれてゐる。

ニセコアンヌプリへは比羅夫驛にて下車し、山田溫泉を經て、その雄大な東斜面を登る。驛から頂上まで五時間前後。降りは頂上からその雄大な斜面を思ふ存分滑れる。そして殆んど驛まで滑つて來られる。スキーの熟達した人ならば一時間半程で降り切つて終ふ。

ワイスホルンへは倶知安驛にて下車。小川温泉に至り、そこで頂上の東端から下つてゐる標高尾根を登る。之に要する時間は五時間。頂上からは小澤に向つて滑り出す。即ち頂上から西北に少し廻り、次の瘤の右横を滑つて北に向ふ尾根に從ひ、更に尾根の岐れる瘤から右の尾根をとつて降り出す。その瘤から尾根は俄かに廣くなり、下方は益々廣くなるばかりで、殆んど傾斜がなくなつて滑らなくなり、それに何處も一面に灌木林の同じ樣な平になつてゐるから、餘程氣をつけて降りないと、とんだ遠廻りをすることがある。頂上から小澤驛迄、約二時間で降れる。若し雪が素晴らしくいゝ時は痛快な滑降が出來、一時間と僅かで降つたといふ記錄さへあるが、それほど長い斜面である。

又この降路の通りを小澤驛から登つて小澤驛に降つても好い。尾根は實に緩いから登り易く、

之も約五時間の登りと見れば充分である。降りには登りのスプールをつたはつて、傾斜のあるかないか判らない樣な平を、どん／＼滑つて來る。

青山温泉を出發點とするもの

青山温泉に行くには昆布驛で下車、驛近くに温泉の案内所がある。溫泉はニセコアンベツ川の緣に臨むで、一段低い所に建てられてある。青山温泉は古くより北大スキー部のスキー合宿所になつてゐて、二〇〇人近く收容し得る旅館である。そして最も設備が整つてゐる。しかし十二月下旬、北大スキー部合宿中は非常に混雜するから豫め照會せられたい。案内所で溫泉迄の馬橇を用意することが出來る。しかし荷がそれ程重くなければ三時間位の處であるから馬橇に乘ることはない。

ニセコアンヌプリ（一三〇八・五米）

チセヌプリに行く他は、宿屋の前の橋を渡つて對岸の高臺に上り、夫々目的の山に向ふ。

ニセコアンヌプリへは頂上から眞南に走つた標高尾根を辿るのである。その尾根に取付くには、高さ八〇〇米位の處からその西側に岐れてゐる尾根につゝかける樣に高臺を斜に橫切つて行く。尾根に登りかけてから頂上迄約八〇〇米の登りである。頂上はすぐ目の上に見えてゐても、仲々時間がかゝる。尾根が廣いからヂックザックは自由にかける。八〇〇米附近で岳樺の疎林は盡き、それよりは眞白な斜面となる。一一〇〇米附近より多くの場合雪面が堅くなつてゐるけれども注意しさへすればスキーで登つて危險はなく、シュタイグアイゼンを穿く程のことはない。頂上まで二休み位で登つてしまひ、溫泉から約四時間かゝる。この斜面の下降も實に壯快である。殊に直滑降に興味を多くもつてゐられる人には絕好な所である。スキーの相當に上手な人であれば、下の平まで二、三十分のうちに降つて終ふ。

岩雄登（一一五四米）

前と同じく溫泉の上の高臺を眞北に三角點八三九米の山（北大スキー部ではモイワ山と呼んでゐる）に向つて山の裾まで殆んど平な耕地を行く。モイワ山へはその中央の尾根を登る。木が

混んでゐるから雪の少い年には登りにくいこともあるが、多くの場合たやすい所である。その登りが一時間かゝる。その上から右に折れて新山精錬所跡を通り、以下前述（二十五頁）通りである。歸路も同じ道順をとる。距離が遠いだけに、日の短い冬のことであるから途中あまりゆつくりは出來ない。

チセヌプリ（一一三四・五米）

チセヌプリだけは出初めから別の道順である。溫泉の裏に廻り馬場溫泉（今は廢屋になつてゐる）に向ふ。その間、地形の複雜な所を長く通るから注意を怠らないことが肝要である。馬場溫泉迄來れば、採るべき尾根は明瞭で何の心配もない。溫泉の澤を左下に見て地形圖の逕を通り尾根をぐん／＼登り、八〇〇米の附近から頂上をめがけて進む。雪上數尺露はれて、雪のガチ／＼に凍りついた岳樺の間を登れば、何なく頂上に出られる。この登路はチセヌプリの登りの中で最も容易であり、且つ寒風を直接うけないだけでも樂である。溫泉からチセヌプリ迄は略々三時間である。歸路は同じ路を歸つてもつまらないから、前述の說明の通り井上溫泉（二十三頁參照）を經、

モイワ山を廻つて歸つて來たい（三十頁參照）

溫泉附近の良好な斜面としては

ニセコアンヌプリのくだり。チセヌプリから馬場溫泉までの斜面。

である。

又初心者の練習場としては、モイワ山南麓一番下部の耕地に續く斜面が最も近くて好い。

新見溫泉を出發點とするもの

新見溫泉に行くには、蘭越驛に下車、驛の近くに溫泉の案内所がある。ひどい吹雪の日や、そのすぐ後の日以外は馬橇を利用する事が出來る。冬は尻別川を渡り右に折れ、三角點二四六・四米の東を流れる川の西側、臺地の逕（圖上で中斷する逕）を進み、上記三角點二四六・四米の西側を通り、北々東に尙臺地を進み山の鼻（ペンケ目國內川のペの字の西方）に出る。この逕は耕地がながく續きダラ〳〵登りで、うんざりする。その山の鼻からはペンケ目國內川を挾んで兩岸

の尾根が狭り、逕は溪沿ひとなつて、可成り深い谷底を左に見下しながら山の腹を傳つて行く。驛より溫泉迄約十粁、四時間程かゝる。

目國內岳（一二〇二・六米）

目國內岳はどつしりかまへた山容をもつてゐる。目國內岳ばかりでなく、どの山に行くにも、溫泉北方の峠（七五八米）迄は何としても登らなければならない。峠へは道路について登れば好い。一時間弱で峠の廣い平に出られる。それより左に曲つて、三角點九八〇米の山の南の腹を廻り鞍部に出る。鞍部からも右山で登り、頂上のすぐ下にある岩の下方を廻つて頂上に着く。峠より二時間前後を要す。歸りは鞍部まで大体斜滑降で降り、三角點九八〇米の山に登る。こゝから距離にして四〇〇米の降りが素晴らしい斜面で、こゝでゆつくり遊んで來られる。峠からの降りも、登りのスプールを飛ばして來ると痛快な程飛ぶ。

又別の一つの登路が考へられる。それは峠へ出ないで、ペンケ目國內川を渡つて對岸の尾根を登るもので、登りも降りも面白さうである。しかしその溪が深く、對岸は頗る急だからその尾根

に出るまでが仲々困難らしい。

岩内岳（一〇八五・七米）

岩内岳へは目國内岳の頂上から北に向つて降り、だゞつぴろい少しも滑らない平を通り、頂上の所で一寸登れば好い。目國内岳より往復一時間半を要す。

雷電山（一二一一・六米）

雷電山頂は殆んど傾斜がないと言つて好い位眞平な、それこそ攫みどころのない様な漠然たる所である。ガスにでもまかれたら忽ち進退谷まる。目國内岳から往復二時間強、尾根を傳へばよい。

チセヌプリ（一一三四・五米）

峠から右に曲つて登り、九五八米の瘤を越え、尾根通し一〇七六米の圓錐形をなす峯（俗稱無名山）に向ひ、この峰には登らずにその東北下を通り、チセヌプリに向つて降りる。一〇七六米

の峰からチセヌプリにかけた斜面を、以前北大スキー部では「三十度のスロープ」と稱してゐた。その斜面を降りた低部よりチセヌプリの中腹を南に廻りながら頂上に出る。溫泉より四時間半を要す。歸路、近路をとりたい時は、峠へは出ずに一〇七六米の峰の南側を卷いて標高尾根にかゝり、その根元で西に飛出した小さい出ッ張りの方へ行き、そこから割合急な斜面を澤に降りる。それから低い尾根を一つ越して澤について降り、溫泉の半粁程下手に出る。この下山の途をとると、一〇七六米の峰から一時間强で降れ、峠へ廻る時間より三、四十分は短縮出來る。併し登りには時間上では殆んど差がない。

初心者の練習に適した斜面は溫泉附近にはない。しかし峠に出れば好い斜面が自由にとれる。一般のスキー家にとつては斜面の不足を來す憂はなく、就中好いのは

目國内岳頂上からの下り。三角點九八〇米の瘤の頂點からの東斜面。一〇七六米の峰からチセヌプリの下まで續いた斜面。チセヌプリの西南面の斜面。

等である。

積丹半島の山岳

積丹半島は鰊の著名な漁場として、道内は勿論、道外にも普く知られ、又追分にもその風土を歌はれ懐しい餘韻を含んでゐる。増毛の鼻と對して石狩町から余市町にわたる廣い小樽灣を抱いてをり、半島の突端は所謂神威岬となつてゐる。半島の大半は山で、海岸は殆んど全部崖をなし、殊に西海岸は濱邊近くまで山勢迫り、それが濱邊近くに至つて急峻となるため道路はその海岸の絶壁を切崩し或は崖下の汀につけられてある。

然るに此程山ばかりの所に拘はらず、山は至つて貧弱である。大部分一〇〇〇米に満たないものばかりで、一〇〇〇米を越すものは略々中央に四座あるに過ぎず、その最高峰は余別岳である。その中央部は恰も馬蹄形をなし、そこに積丹岳（一二五五・三米）余別岳（一二九七・八米）ポンネアンチシ山（一一四三米）が蹄釘の如き位置に立ち、珊内嶽（一〇九一・一米）のみやゝ西方に外れてゐる。

山は低いだけに偃松帶はごく僅かで、全山、頂近く迄根曲笹の密生であり、北海道特産とも云ふべき笹筍の産地である。

積丹半島の交通機關は主に發動機船である。余市町から十噸程の發動機船が毎日二、三回出帆し、美國港をその終點とする。又余別港と美國港間の發動機船も同様に通つてゐる。その他、小樽からも半島廻りの小汽船が出る。

又自動車の便もある。余市—古平間、古平—美國間の定期運轉が融雪後始められる。冬は陸上の交通の便は斷れ（それも近距離の馬橇の利用は出來るが）殆んど發動機船によらねばならない。海岸は隨所に景勝地あり、夏期徒歩で半島廻りをするものが相當多い。

積丹岳（一二五五・三米）

余別岳（一二九七・八米）

ポンネアンチシ山（一一四三米）

後志國　地形圖　廿万—岩内
五万—小樽西部・古平・幌武意・余別・積丹岬
神恵内・茅沼

この三山は非常に接近し、その一つに攀れば他へは二時間程尾根傳ひで行ける。とにかく山は低く且淺く、その上特記すべき程の登山興味なく、只冬季にのみスキー登山の對照として興味をそゝる。

登山の時期及び登路

夏期

比較的單調な澤歩きの場所であるが、その中でも美國川を溯るものが幾分面白いと思ふ。その支流、我呂澤の上流は幾つにも小さい澤に岐れ、その澤のとり方次第で前記三山の孰れかの峰に近く出られる。

美國を早朝出發すれば、その日の中に頂上近く露營することが出來る。美國川奥の海田牧場迄の路は林檎や櫻桃の畑の中を通つてをり、平穩な農村風景の所である。海田牧場は乳牛の十數頭もゐる大きな牧場であるから新鮮な牛乳を乞ふことが出來るだらう。その奥の瀧ノ澤に民家が一軒あり、海田牧場からその間は雜木林で小逕はそこで盡きてゐる。併しそれから上流も炭材伐出し

の踏分け路があるかも知れない。我呂澤の入口まで美國から四、五時間かゝる。本流の方が澤は樂しいが、我呂澤に入つて見るのも面白い。我呂澤は初めの二股の少し先迄はなかなか惡い。兩岸が非常に高く澤は極度に狹められ、巨岩・瀧壺等多く、通過頗る困難である。それから先は地形圖に依つて適當な澤を撰ぶ。前記の二股を右にとれば積丹岳、余別岳の下に出で、左にとればポンネアンチシ山の下に出る。どの澤に入つても露營地は可成り上の方で尾根近くなるから、次の日一日で三山とも登つて露營地に戻る事が出來る。

又余別町から余別川を溯つて、ポンネアンチシ山の裏側から登ることも出來、そして美國川に下りる道もとれるが、余別川の樣子は明かでない。

冬期

積丹岳のみならば一日で登つて來られる。園子茶屋（美國港の東、四粁の街道にある）附近から地形圖上その中腹まで小逕のある尾根を登り初め、標高尾根に合する。そして美國川の瀧ノ澤の頭で積丹岳の尾根に移り、樹木のない尾根上を傳つて頂上に達す。頂上迄五時間強を要す。余

別岳迄はそれより往復二時間半かゝり、日歸りの登山としてはそれ迄行くことは少々無理である。下降は雪さへ好ければ面白い斜面である。併し、この尾根は、冬は常に海上からの強い寒風を直接にうけ又强風のために雪質が悪化してゐるからスキーでの登りは樂觀出來ない。他地方から來た登山者であれば一個所の露營の面倒はあるが、美國川に入つて馬蹄形狀の溪の内側から登つた方が好い。

その露營地點は我呂澤の入口とすれば充分であり、我呂澤は冬期の露營に不適當である。又露營の準備はして行つて炭材伐出しの人夫小屋が適當な場所にあれば、それに泊めて貰ふことは更に便利である。

我呂澤は冬は全然通過不可能である。合流點から直ちに左岸の尾根に登り、その可成り高い所を通過する。そして三角點九一〇・七米の山の下あたり迄は、所々木の混んだ所を通るので案外時間がかゝる。それから雪で淺くなつた澤を二つ越して尾根（その尾根は複雜してゐて、どの方向に進むのか初めの内は見當がつかない）を辿る樣になる。大体進路を北西にとつて二時間程登ると、尾根の近くに出られるから、更に頂上の東の鞍部に達する方向を決定して登る。鞍部から

は三十分足らずで頂上に着く。露營地より約六時間かゝる。略々九〇〇米以上は矮い岳樺とハンノキ帶の廣い斜面であるから、降る時は實に愉快に滑れる。降りの時間は大体二時間半。

時として、海田牧場の裏山からその尾根の五四八米に出で、それより標高尾根を登つて積丹岳の頂上に達す。この場合は海田牧場に泊めてもらはねばならない。この登路は最も容易である。

又余別岳へ向ふには積丹岳の頂上を經て、尾根傳ひに行つた方が、我呂澤について直接に達するものより可成り判り易い。澤の入り込みが烈しいだけ煩はされること多く、それ故に時間の浪費されること夥しい。

この二山を極めれば、ポンネアンチシ山に登る勇氣が恐らくなくなると思ふ。

注意事項

園子茶屋より登る時は附近の中村牧場に一泊を乞ふもいゝが、少し遠いけれど美國の宿屋に泊る方が便利である。

赤　岩　山　（小樽附近）

小樽赤岩附近

赤岩附近と言ふのは、小樽市北方に在つて、地圖上二八〇・六米とある赤岩山（東）から、三七一・一米の赤岩山（西）につゞく海岸に面した附近一帶のことである。海邊に沿ふた斷崖ではあるが、その線の交錯や色彩から、山好きな人々にとつて又捨て難き所である。

赤岩を中心として祝津・鹽谷等の漁村をつなぐ海岸線は、一日の散策としては充分すぎる程のよろこびを與へてくれる。又赤岩附近の斷崖に岩登りを試みれば、その興味はより深くなろう。

參考地圖は小樽西部（二万五千分の一）である。

散策

小樽驛下車、乘合自動車にて手宮に到り（手宮驛に下車するも可）梅ケ枝町を經て、赤岩の峠に到る。一つはこれから東し斷崖上の細逕を傳つて祝津に下り、手宮にもどる。他は峠より西し

て、西赤岩山を登り、高臺を傳ひ、余市岳・朝里岳の山々を眺めながら鹽谷に到る。どちらも散策の道順として面白い。

西赤岩山の岩登り

(一) 峠から見える西赤岩山の北向の岩壁

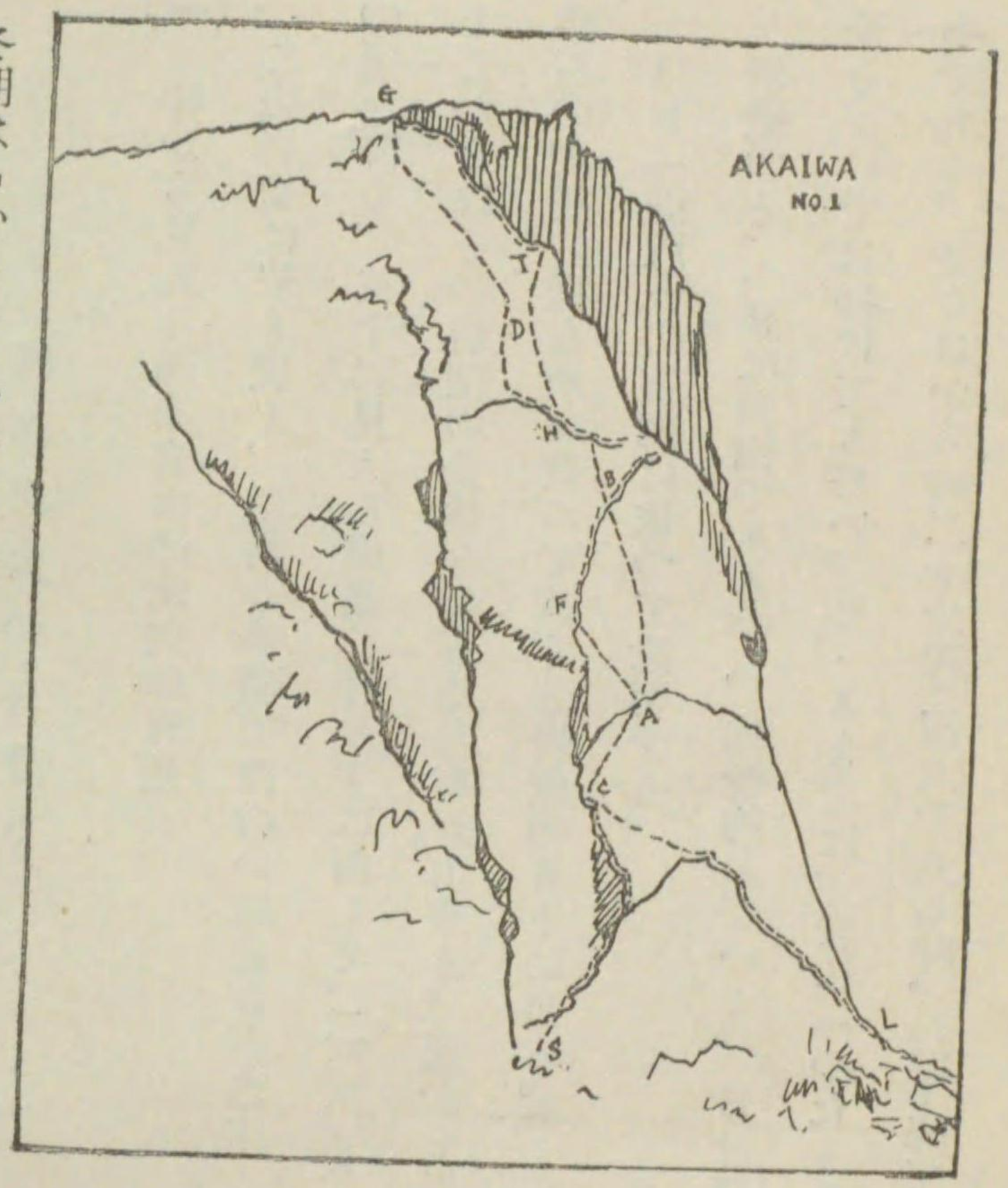
この岩壁は岩も硬く、傾斜も手頃で面白い岩登りが出來る。その岩壁へ行くには峠から海邊への逕を降り、眞下に見える漁場に行かずに西して、二〇〇米も行くと西赤岩山の岩壁の下に出る。そこからはその岩壁の全体を仰ぎ見る事が出來る。逕から岩壁の方へ約十五分程ブッシュの間と落石の溜場の樣な所を登つて行くと岩壁の眞下に出る。

以下「圖版」の符號に依つて説明する。

岩壁のとつつきは面倒であるが、比較的Lがいゝ。Sは悪い。Lの附近には岩穴があるから、泊りがけで出掛けても好い。C・Aまでは、岩に「つたうるし」がしがみついて居るから割合に樂である。登り口から約二十分程(四人で登る時、以下總て同じ)かゝる。AからFを經て、Bま

では注意をしなければならない四十分位かゝる。Bの眞上には大きな岩が殆んど垂直になつてゐるが岩の割目が好い手掛りになる。こゝはハンド・トラバースをして約二米左へ行き、Hの岩の裂目に一度入り、Dを經てGに行くと好い。Tを經るのは餘り薦めたくない。

HからGまで約三十分、Lから頂上まで約一時間半位を要する。

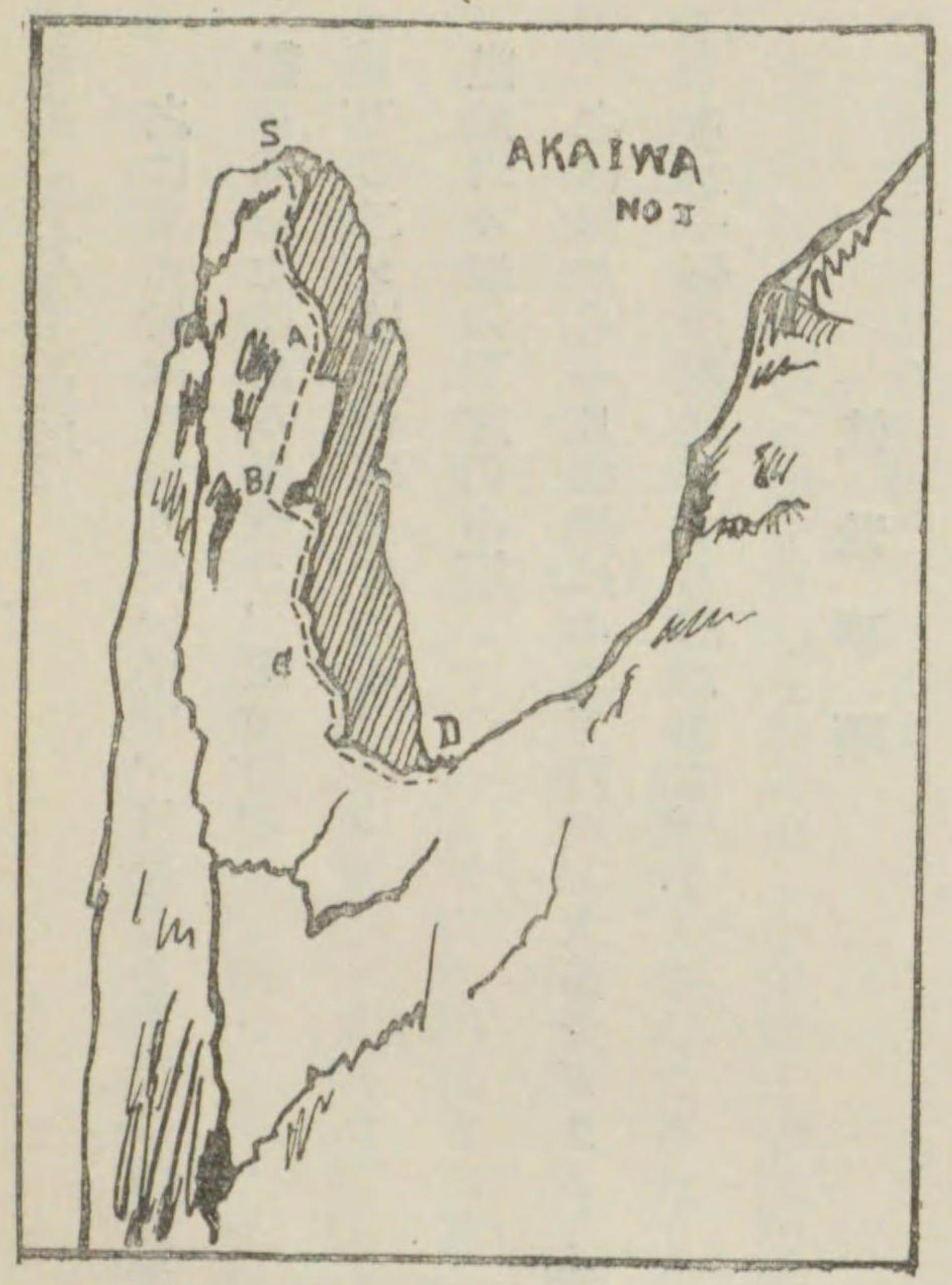


冬期はLからAまでが案外悪い。AからHまでも、雪が足場や手掛りの所に凍りついてゐるので油斷出來ない。HからGまでは樂である。時間は三倍かゝると思へば好い。

（二）西赤岩山頂上から西北の岩塔

この岩塔は下の海岸の路を行く時、西赤岩山の右に見える。普通、この岩塔基部へは、西赤岩の頂上から下つて行く。その岩塔の高さ（Dから）約二十五米で、三、四十分で登れる。下りも略々同時間である。BからAの登りは好いが、下りが悪いから注意を要する。

冬期は略々夏期の倍近くかゝる。殊に基部迄の西赤岩山からのガレた斜面が困難である。



東赤岩山の岩登り

東赤岩山の岩登りは西赤岩山に比し概して困難である。その岩登り場は難易種々がある。その二三を舉げると、

東赤岩山の頂上から崖の方へおりた小逕を下り、觀音様の傍を過ぎて尙僅か下ると右に立つてゐる高

さ五、六十米の岩塔。

之は東赤岩山中最も高い塔で、岩登りとしては西赤岩山より更に困難である。

観音様の上にある岩續き、眼鏡岩等

このニッは割合容易である。

眼鏡岩々壁の下方の小塔

之は峠から一旦海岸におりて汀から大部分ガラ〳〵岩を登る。岩登りらしい所は十米程であるが一個所腹這ひする所がある。

注意事項

以上述べた岩登りには、ザイル（三〇米）が必要であるから、必らず携帯すべきである。

札幌近郊の山岳

此處で札幌近郊の山岳と言ふのは、大体に於て、札幌市の東部を流れてゐる豊平川の上流を圍む山岳を指すのである。

豊平川は小漁山に源を發し、此の山と中山峠との間の緩やかな山脈の水を集めて北に流れ、定山溪附近に於て東に向ひ、更に石山附近で東北に折れて札幌市の東部を貫流してゐる。豊平川の主なる支流には薄別川及び白井川がある。薄別川は喜茂別岳に源を發して、定山溪より約二粁上流に於て西南より豊平川に入つてゐる。白井川は余市岳に源を發し、水量に於てこれと匹敵する小樽内川を合して間もなく定山溪の下流で、豊平川に注いでゐる。

札幌近郊の山岳は根曲笹と偃松の密生に登山を妨げられ、且つ登山路が殆んどないから夏期の登山は困難である。しかし冬には針葉樹の山腹は良質の雪に惠まれて、シーグレンデとして優れ又登山も容易になる。

今札幌近郊の山岳を説明の便宜上、大体四つの群に分けてみる。勿論此等の群は何れも獨立してゐるのではない。

（一）小樽内川の左岸、西北から南東に續く山々

この中に含まれる山々は、和宇尻山・遙山・奥手稻・手稻山・迷澤山・百松澤山・神威嶽・烏帽子嶽砥石山・天狗山・觀音岩山等である。

烏帽子嶽は標高一一〇九・七米で、この一群の山々の中で最も高く、他は何れも一〇〇〇米内外の山である。この群の山々は、山頂迄針葉樹に包まれ、根曲笹が密生し、且つ手稻山を除く外、登山路もない。しかし之等の山々に入つてゐる澤には氣持のよい所が多いから、露營に適するのみならず、里近い澤沿ひの逕は散策といつた輕い氣持で歩くことが出來る。

一度積雪期に入れば、それはスキー家の樂園となり、札幌及び小樽から日歸りのスキー享樂が出來、且つ手稻山及び奥手稻には冬期使用に便利な小屋があるので、各山とも多數の登山者に賑つてゐる。

（二）小樽内川と白井川の上流の山々及びこの二川の間に挾まれる山

この中に含まれる山々は、余市嶽・朝里嶽・白井嶽・天狗嶽等である。

余市嶽の一四八八・一米を最高として、白井嶽・朝里嶽は共に一三〇〇米位の高さを有し、頂上附近には偃松帶を持つてゐる。之等の山も亦夏期の登攀は困難である。冬期には頂上附近の偃松は雪に埋れ

て一木もなく、又風當りも强いから雪はクラストしてゐる場合が多い。しかし岳樺の疎林、針葉樹林は共に絶好のシーゲレンデである。之等の山は札幌・小樽兩市から一日の往復は不可能であるが、朝里嶽の西北山麓及び小樽内川に小屋があるから、之を利用しての登山者が多い。天狗嶽はこの一群の中で、特異の山貌を有し、冬期よりも夏期の登山が多く行はれてゐる。

（三）薄別川上流の山々

この中に含まれる山々は、無意根山・中ノ岳・並河山・喜茂別岳等である。

無意根山から南、喜茂別岳に至る間の山々は一三〇〇米前後の高さを有し、その頂は森林帶を越してゐる。夏期、この一群の山々は登山者から殆んど顧みられてゐない。しかし積雪期には、定山溪或は中山ヒュッテからの登山者多く、その登山の對象となつてゐるのは、主として無意根山及び喜茂別岳である。

（四）豊平川本流の東に位置する山々

この中に含まれる山々は、札幌嶽・狹薄山・空沼嶽・漁嶽・小漁山等である。

之等の山々もその頂上附近には偃松或は根曲笹が密生してゐるので、夏期の登山は容易でない。しかし札幌嶽・空沼嶽には登山路が開かれてゐるので、樂にその頂に立つ事が出來る。

近年、万計沼の畔と豊平川の二股に小屋が設けられたので、冬期に於て之等の小屋からの登山が行は

れ、又定山溪溫泉及び定山溪電車を利用して一日のスキー享樂が出來る。

以上四つの群に分つて述べたが、次に各山に就いて記述する前に、登山小屋名・位置・所屬・或は管理者をこゝに揭げることにする。

小屋名	位置	所屬	參照項
朝里岳ヒュッテ	朝里嶽	小樽スキー倶樂部	朝里嶽
パラダイスヒュッテ	手稻山	北海道帝國大學文武會スキー部	手稻山
ヘルヴェチヤヒュッテ	小樽內川	北大醫學部解剖學教室 管理者 山崎春雄	朝里嶽
奧手稻山の家	奧手稻	札幌鐵道局	奧手稻
空沼小屋	万計沼	秩父宮家 管理 北大醫學部產婦人科 大野精七	空沼嶽
万計小屋	万計沼	帝室林野局札幌出張所	空沼嶽
二股小屋	二股	同上	漁嶽
中山ヒュッテ	中山峠	北海道山岳會 管理 虻田郡喜茂別字黑橋 三上喜六	喜茂別岳

砥石山（八二六・七米）

石狩國　地形圖　廿万—札幌　五万—札幌・錢函・石山・定山溪

札幌市の南西にあたつて、針葉樹に覆はれた砥石山の頂が、その北西にある八二〇米の峰と共に見える。この山は夏・冬とも札幌市から一日で往復出來る。又札幌市からこの山に登る途中にある盤ノ澤、及びこれに至る二つの峠附近は、郊外散歩に氣持のよい場所であり、又冬にはよいスキー滑降地となる。

登山の時期及び登路

夏期

札幌市から十二軒澤を通り峠を越して盤ノ澤に出る。地圖上の盤ノ澤の小學校（現在の位置は峠から下りて盤ノ澤に出合つた左側にある）の下流に左岸から入つてゐる小さな澤を上り、四二

七・二米の三角點の東を通つて中ノ澤に下りる小逕がある。四二七・二米の南方、中ノ澤二股は平らな草原で、此處から澤に入り、これを登り詰めるのである。途中迄は微かに逕がある。頂上附近では暫らく根曲笹を分けねばならぬが、ひどく煩はされることはない。この澤を登る時に注意しないと、八二〇米の峰との中間に出て根曲笹に苦しむ事が多い。頂上まで圓山電車終點から約五時間を要する。歸路は簾舞に出た方が樂である。頂上は僅かばかりの草で、南、簾舞の街の方に尾根（地圖に村界の記號のある尾根）が見える。この尾根の上は樹木がなく草ばかりであるからこれを降りて豊平川の畔の道に出る。定山溪電車の簾舞驛に出るには川に沿つて登り、發電所の上流の橋（地圖にはないが）を渡ればその裏に出ることが出來る。又砥石山頂から別の歸路がある。それは村界線の尾根の西の澤に下り、これを一時間程降りつゞけると逕に會する。この逕を約一時間降り豊平川の畔に出て、川沿ひに登り前記の橋を渡り驛に出る。

冬期

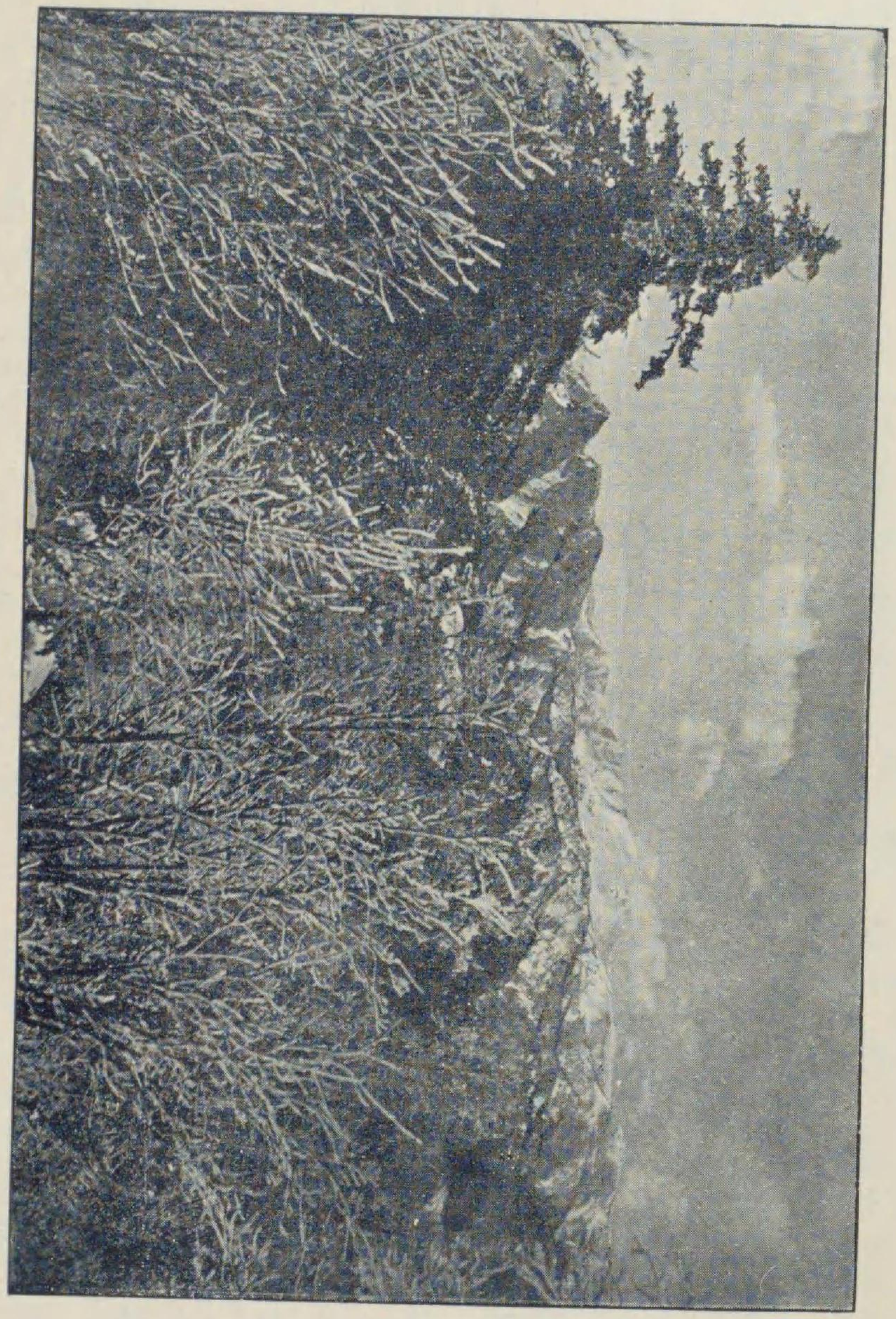
積雪期にも夏と同樣の道を通つて中ノ澤を登ることも出來る。或は瀧ノ澤を登つて幌見峠を越

し盤ノ澤に出て、そこの澤を登る。四八〇米と四三四・三米の三角點とを結ぶ線の所の澤の岐れを左にとり、次の二股の左の澤の中程に顯本寺奧の院がある。此處までは逕を辿ることが出來るこの澤を上り詰めて六〇一米の南東の肩に出て、頂上への尾根を傳へばよい。頂上まで圓山電車終點から約四時間を要する。

歸路は登り路そのまゝを滑ればよい。若し餘裕があれば、頂上の西北の瘤の東斜面及び八二〇米の東斜面に實に好いグレンデがあるから、美しいスプールを心ゆくまゝに殘すのも好いであろう。こゝに遊んだら中ノ澤に降りるのが樂である。又簾舞に降りて、定山溪電車に乘つてもよい。簾舞に降りるのは、夏期と同樣尾根を通つてもよいが雪質の惡いことが多い。雪が惡ければこの尾根のすぐ西の澤を降つた方が得策である。

百松澤山（一〇三八・一米）

石狩國　地形圖　廿万—札幌
五万—札幌・錢函・石山・定山溪



百松澤山頂上より西方を望む（札幌近郊）

普通、三段といふ名で呼ばれ、札幌市の西にあたつて見える連嶺中、最も高い山である。夏期の登山者は少いが、冬期は毎日曜、多數の登山者がある。

登山の時期及び登路

夏　期

この山には登山路がないから、常次澤か又は宮城澤から登らねばならぬ。常次澤の方は札幌市から一日往復は困難である。しかし常次澤では氣持の好い露營が出來る。露營の用意をして午後からでも出かけ、小別澤を通り發寒川の左股に出て川沿ひにのぼり、常次澤の瀧の手前で一泊する。

翌日露營地から澤を溯り詰めて頂上南の鞍部に出で、頂に達する。頂上附近では大きな根曲笹に相當苦しめられる。露營地から頂上迄約六時間。

宮城澤を登る路は小別澤を經て發寒川の右股に出て、宮城澤を登る。この澤には三分の二位まで小逕があるから札幌市から一日で往復することが出來る。この澤には倒木が多いけれども、根

曲笹に苦しめられることなく頂上に達することが出來る。

尙この外に百松澤（烏帽子嶽の項參照）或は瀧ノ澤の支流、貂ノ澤からの登路もある。併し一日で往復する爲めには宮城澤から入つて、これらの澤を下り、定山溪電車を利用した方がよい。

冬期

小別澤を通つて五八五・三米の三角點の南を東南に流れてゐる澤に入り、七四五米の西の鞍部から尾根傳ひに頂上に達する。この尾根の八〇〇米附近に雪庇がある。この雪庇はその上を通るか、或は右に卷いてもよいが、右はブッシュが多い。頂上まで圓山終點から五時間位を要する。

頂上の南の峯から尾根を滑つて八二〇米を經、砥石山に登つて歸るか、又烏帽子嶽を通つて定山溪に降るのも面白いが、豫め時間のかゝるのを考慮しなければならない。（砥石山・烏帽子嶽の項參照）宮城澤を登つて頂上に達することも出來るが、現在はあまり行はれてゐない。

五月中旬頃までなら、五八五・三米の三角點の南附近まで殘雪があり、又この附近まで小逕もあるから、ゾンメルシーをかついで出かけて、百松澤山・烏帽子嶽・神威嶽に登るとか、或は迷

澤山を通り奥手稲に出て函館本線錢函驛に降りることも出來る。

烏帽子嶽（一一〇九・七米）
神威嶽（九八二米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌
五万―錢函・定山溪・札幌

烏帽子嶽は百松澤山の南の峰から南西に出た尾根續きにあり、その頂は東西に長く、四面は急傾斜をなしてゐる。又神威嶽は烏帽子嶽から南東に延びた尾根の上にあり、三方は崖を繞してゐる。

この二つの山は共に夏期の登山が困難であり、又冬期に於ても餘り登られてゐない。

登山の時期及び登路

夏期

烏帽子嶽には定山溪から木挽澤、或は瀧ノ澤を溯つて頂上に達する事が出來るが、根曲笹に苦

しめられることは覺悟せねばならぬ。

神威嶽へは木挽澤を溯るか、或は百松澤を溯つて頂上に達する。百松澤に入るには、砥山からと、地圖上にない逕とがある。後者は定山溪電車、一ノ澤驛で下車、驛の少し下流の橋を渡つて豊平川の左岸を溯り百松澤に入る。そして右岸の山腹をへずり砥山からの逕と合す。頂上の下は崖に圍まれてゐるから、烏帽子嶽に續く尾根の方に出て登らねばならぬ。烏帽子嶽及び神威嶽はどの澤を入つても、一日で往復することは困難であるから、澤の途中で一晩露營して、翌日頂上を極めて歸る樣にした方が好い。

冬期

積雪期には百松澤山（百松澤山の項參照）を經て登る。それは百松澤山の南の峰を越し、暫らく尾根を傳ひ烏帽子嶽頂上への斜面を登るのである。圓山電車終點から約七時間（百松澤山から約二時間）を要す。

神威嶽も百松澤山から尾根傳ひに登られるが、單に頂に立つといふだけで、スキーの面白味は

殆んどない。

烏帽子嶽から定山溪に降るには、木挽澤の西の尾根を降るか、或は六九九米への尾根を降つてその東側の澤に入り、小樽内川に出て定山溪への道を辿る。

この山は、どの斜面も相當急である。殊に定山溪側から登れば一層この急斜面に惱まされる。順路としては百松澤を越して、定山溪に降る方が好い。然し一日たつぷりかゝるから札幌を朝早く出發せねばならぬ。

迷澤山（一〇〇五・七米）

石狩國　地形圖　廿万－札幌　五万－錢函

迷澤山は百松澤山から奥手稻（九四九・二米）に續く尾根を僅かにそれた處にある。その頂上附近は、ひどく根曲笹が密生してゐるから夏期の登山には適しないが、積雪期の登山は容易に行はれる。この山附近から小樽内川を隔てゝ眺めた天狗嶽の岩峰は實に立派である。

登山の時期及び登路

夏期

夏期の登山は不適である。

冬期

積雪期にこの山に登るには、札幌市から小別澤を經て、發寒川の右股に出で、そこから阿部山の西の澤に入り、九〇〇米の尾根に取付き頂上に向ふのである。圓山電車終點から六時間位を要す。又札幌鐵道局の奥手稻山ノ家（奥手稻の項參照）から、南に尾根傳ひに歩いて頂上に達する事が出來る。この往復は一時間半と見れば充分であらう。山ノ家から札幌への歸路、この山に登つて發寒川に降り、小別澤を經て札幌に歸るのも好い。

尙、ヘルベチヤヒユツテ（朝里嶽の項參照）から登るには、欅山を通つて尾根傳ひに頂上に達するか、或は夕日澤（欅山の北の澤）を溯り、山ノ家を經て頂上に達する。後者の方が前者より樂で

ヒユツテから約四時間を要する。

この山の東斜面及び發寒川上流六〇〇米の二股の間に下りてゐる尾根等は、好い滑降斜面である。

手稲山（一〇二三・七米）

石狩國　　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函

手稲山は札幌市の西にあつて、グレンデとして有名であり、その山腹ガンピ平に北大スキー部のパラダイスヒユツテが建てられてゐる。その位置を錢函の地圖上で示せば、「手稲村」の村の字の西約五〇〇米、瀧ノ澤の上流にある。夏はヒユツテまで逕があり、又頂上にも樂に立つことが出來るから一日の行樂を樂しむことが出來る。

登山の時期及び登路

夏期

手稲山に登るには三つの登路がある。

（一）函館本線輕川驛下車、小學校の傍を通つて標高尾根についてゐる逕を登る。この尾根は下の方は落葉松の植林地である。四〇六米の南を通り次の瘤（この瘤の西南斜面を「ガラガラスロープ」と言つてゐる）の北を捲いて、その西南の鞍部に降る。鞍部から再び登つて、ヒユツテの方へ平らな尾根を歩くと、間もなく丁字路に出る。そこから、右に折れて降ると道の左にヒユツテが見える。

頂上へは前記の丁字路を左に曲るとすぐ澤が流れてゐる。この澤を溯つて行けば、水の盡きる所から再び小逕がある。その小逕を登り、八三七米の西の鞍部に出る。こゝから尾根上の逕を登つて頂上に達す。輕川驛から約四時間。

（二）輕川から地圖の輕川温泉（光風館）を經て、尾根傳ひの登路もあるが、この逕は近時あまり通らないので荒れて居り、又高低が多いので、あまりよい登路ではない。

（三）　發寒川上流からの登路は、發寒川の寒の字と川の字との間の小さな澤の附近から少しブッシュをこぎ、暫らくガレを登つて頂上の崖の東端に出る。こゝから少し笹を分けて輕川からの逕に出て頂上に達する。圓山電車終點から約五時間。尙發寒川には地圖に記してある以上に上流まで小逕がある。

冬期

夏と同樣に輕川澤からその澤の右岸の標高尾根を登つて、パラダイスヒユツテに行く。ヒユツテから、その横を流れてゐる澤の斜面を登つて、頂上の東、約三〇〇米の處に出る。約四時間。歸路は普通登りの通りに降る。

又頂上から「ネオパラ」を廻つて、前述の「ガラガラスロープ」に出て歸るものも多い。「ネオパラ」と言ふのは、八三七米の東斜面で、そこは良好なゲレンデである。

尙頂上から「ネオパラ」へは、八三七米の西の鞍部に降り、其處から余り登らずに南斜面を捲き「ネオパラ」の上部に出るのである。「ネオパラ」からは、左山で八三七米を捲いてその北の澤

に降り、「ガラガラスロープ」の下に出る。

又ヒユツテから大曲を經て、輕川に出る降路もある。大曲とは、輕川澤の上、三角點四四四・四米の附近を言ふ。ヒユツテからは五〇一米を經て北に尾根を步き大曲の上に出る。大曲からは尾根を東に曲つて降り、輕川澤に沿ふた尾根を滑つて、輕川驛に達する。

普通に降つて約二時間、「ネオパラ」を廻れば約三十分多くかゝる。

尙パラダイスヒユツテから奧手稻に至る間には指導標がついてゐる。（奧手稻の項參照）

奧手稻（九四九・二米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函

手稻山の西北、三角點九四九・二米の山を奧手稻と呼んでゐる。冬期には每日曜、小樽・札幌のスキーヤーで賑はふが、夏期に於ては登るものは殆んどない。昭和五年、札幌鐵道局の奧手稻山ノ家が、この山の南、夕日澤（奧手稻の南に入つてゐる小樽內川の支流）を隔てた對岸の好ス

ロープ所謂ユートピヤに建てられた。（十二月一日から四月末日まで小屋番が居る。寢具・燃料の備付はあるけれど、炊事は各自に行はねばならぬ。小屋宿泊券は札幌・小樽・錢函の各驛で、又休憩券は錢函驛で發賣されてゐる）

登山の時期及び登路

夏　期　略す。

冬　期

函館本線錢函驛に下車。十萬坪を通つて、石山澤附近で錢函川を渡り、氷を切出してゐる池の傍を通つて川の右岸を溯る。二二〇米の等高線附近から左に登り、緩やかな尾根を進んで六六七米の西の凹地に達す。凹地の西にある瘤の南を通り、右寄りに樹木の割合に少い斜面を登る。岩近くなつてから、岩の下を右山で捲きながら登つて尾根の東斜面に出る。この右山で捲く附近は非常に樹木が混んでゐるので、登りにも降りにも通り難い。東斜面に出てからは尾根傳ひに頂上

まで達する。錢函驛から奥手稻を通つて「山ノ家」まで指導標がついてゐるから、これに頼る事が出來る。錢函驛から頂上まで約四時間を要す。

若し餘裕があるなら「山ノ家」の附近ユートピヤで遊んで、登つた路を引返しても好い。登つた通りに降りて約二時間を要す。

又三角點八三八・七米の山を通る路も面白い。（この路は登りにはあまり用ひない）頂上から北西に滑つて右山で八三八・七米の南の鞍部に出る。八三八・七米は上まで登り詰める必要もない。西南の腹を捲いて、錢函峠（錢函驛から小樽内川に通ずる、地圖に記してある小逕の峠を言ふ）の緩やかな原に出る。

尙峠から「山ノ家」までは、奥手稻頂上の南西を通つて指導標がついてゐる。峠から錢函へ地圖の小逕通りに、左山の斜滑降で一氣に飛ばすのは實に愉快である。

或は峠から更に遙山（九〇六・九米）を經て、和宇尻山の西を廻り禮文塚に出て錢函驛に至ることも出來る。（遙山の項參照）

頂上から峠を經て歸るには、普通より一時間位多く要し、遙山を廻つて歸るには約二時間多く

要す。

又輕川驛に下車。手稻山の北大スキー部のパラダイスヒユツテ（手稻山の項參照）から指導標に依り奥手稻に達して錢函驛に降ることも出來る。頂上迄約五時間。その指導標はヒユツテから手稻山の北側をあまり登らずに左山で進んで、九七一米の北の肩に出て、尾根傳ひに奥手稻に達してゐる。尙パラダイスヒユツテに一泊すれば、一層樂に行ふことが出來る。

又ヘルベチヤヒユツテ（朝里嶽の項參照）から登るには、夕日澤の右岸の緩やかな標高尾根を登つて頂上に達するか、或は夕日澤を登つて南側から頂上に至るかする。

遙　山（九〇六・九米）

石狩國　地形圖　廿万—札幌　五万—錢函

遙山は和宇尻山の西南、九〇六・九米の山である。錢函峠の西に見える眞白な遙山の東斜面は非常に愉快なゲレンデである。夏期は根曲笹の猛烈な處だから登山には適しない。

登山の時期及び登路

夏　期

夏期の登山は不適である。

冬　期

函館本線錢函驛から十萬坪を經、小樽内川に通ずる小逕を登り錢函峠に出る。この逕は冬でも解り易く、その上、ヘルベチヤヒユツテに行く指導標もついてゐる。

峠から西に折れて、遙山の東斜面の下に出、この眞白な斜面に大きなジツグザツグを刻んで頂上に達する。錢函驛から四時間餘を要す。

別に又一つの登路がある。即ち錢函驛から十萬坪の臺地に上り、西して禮文塚川の橋を渡る。その左岸を人家の盡きるあたりまで行く。其處から澤に入つてこれを溯り、獨立標高五〇八米の南方で澤を離れ、右の緩やかな斜面に出てこゝを登る。和宇尻山から西北に出て居る標高尾根の

八〇〇米と七〇〇米との數字の間は、禮文塚川に向つて、餘り大きくはないが崖になつて居る。此の崖の西端附近で右の尾根に取付き、崖の上を暫く登つて右に曲り、遙山の北斜面から其の頂上に達するのである。此れは樂な登路である。錢函驛から四時間餘を要す。
降りには、登りに說明した二つの路の中、何れを採つても好い。又登りに說明した禮文塚川の西の尾根を通つて、禮文塚に降ると變化の多い滑走が出來る。此の尾根は下の方になると海風に曝されてクラストして居る場合が多い。

天狗山（五三六・七米）

後志國　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函

天狗山は錢函驛のすぐ南にあり、東側は崖となつて居る。此の山は驛から餘り遠くも無く、又頂上の眺めもよいから、輕い一日の山歩きには好い處である。半圓を描いた石狩灣の向ふには、增毛の山々が連り、石狩川の屈曲した流れは平原の中に白く輝いて居る。背後の手稻山・奥手稻・

遙山等も懷しく眺める事が出來る。積雪期には此處を訪れる人は少い。錢函驛にスキーを持つて下車した人は皆、奥手稻や遙山への針葉樹の林の中に吸込まれてしまう。

登山の時期及び登路

夏期

函館本線錢函驛から石山に登り、尾根を登つて頂上に出ても好いし、十萬坪を通り三笠越に出て頂上に向つても好い。前者は逕はないが、ブッシュは餘りひどくない。後者には三笠越の峠まで逕があり、頂上までの登りも樂である。

觀音岩山（五〇一米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌　五万―定山溪・石山

定山溪電車の瀧ノ澤驛附近から、豊平川の流を隔てゝ岩山が見える。此の山が觀音岩山であつ

て五劍山とも七劍或は八劍山とも云つて居る。

南東から北西へと數個の岩峯が豊平川の方へ岩壁を作つて、鋸の齒の樣に並び、緣の裾を持つて居る。然し其の裏側は只の藪山に過ぎない。岩登りに行つても岩が脆いので面白くはないが、豊平川を眼下にして眺望は好い。冬期に此の山を登る事はあまり行はれてゐない。

登山の時期及び登路

夏 期

定山溪電車の簾舞驛で下車、驛の裏の橋を渡り、砥山に出て登つた方が樂である。下の方はブッシュを分けねばならぬ。砥山から一時間足らずで頂上に出ることが出來る。

朝里嶽（一二八〇・八米）

石狩・後志 國境　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函

頂上附近は實に緩やかな廣い原で、且つ偃松が密生して居るから夏期の登山は殆んど行はれて居ない。しかし冬期には岳樺の疎林と、針葉樹の山腹とは非常によい滑降地となるので登山者が多い。又、山麓には冬期使用の爲に便利に作られた、朝里嶽ヒュッテ、及びヘルベチアヒュッテがある。

朝里嶽ヒュッテは、小樽スキー倶樂部の所有で、朝里川上流獨立標高六五五米の南の澤にあり、小樽から毛無山（五四八・四米）を經てヒュッテ迄約四時間を要す。このヒュッテは小樽市からの登山に便利である。

ヘルベチアヒュッテに行くには、函館本線錢函驛から小樽内川への小逕を辿り、夕日澤（樿山の北を流れて居る小樽内川の支流）の合流點の僅か上流で小樽内川を渡る。それから白樺の純林の中の小逕を行くと、小樽・定山溪間の大きな自動車道路に出る。此の道路を横切つて二・三百米位入ると、朝里嶽から出て居る澤の緣に建てられたヒュッテに着く。ヒュッテ迄錢函驛から夏冬共四時間位かゝる。

兩ヒュッテ共、寢具・燃料の準備がある。使用者は朝里嶽ヒュッテは小樽スキー倶樂部へ、ヘル

ベチアヒユツテは北大醫學部解剖學教室山崎春雄氏に申込み、ヒユツテの鍵を借りねばならぬ。

パラダイスヒユツテ・奥手稲山ノ家・ヘルベチヤヒユツテ及び朝里嶽ヒユツテは、東から西に連絡よく建てられて居り、冬期には小屋から次の小屋へは一日或は半日で、樂に達することが出來る。且、小屋の附近には良好なグレンデが多いから、これらの小屋を巡りながら、愉快な數日を樂しめる。

小樽内川の白樺の林は實に見事であるし、澤もよいから夏期に錢函から此の川を通つて定山溪に出るのも一日のピクニツクとして面白い。然し今、小樽・定山溪間の自動車道路が出來たので元の樣な氣持とは全然異つて居ると思ふ。

登山の時期及び登路

冬期

朝里嶽ヒユツテからの登路は、頂上から北西に伸びた郡界線のある尾根を登り詰めて頂上に達する。約三時間。

ヘルベチアヒユツテからの登路は、ヒユツテから川に沿つて溯り、三角點七八七・九米の南の二股附近から緩やかな斜面を登つて、獨立標高九三八米に出る。この附近で左に折れ獨立標高一〇九七米の西北を通つて頂上に達する。或は前記の二股を左に取つて等高線六四〇米附近から、獨立標高一〇九七米より東に走る尾根を登りその上に達する。此處から僅か下り愈々頂上への最後の登りにかゝる。最後の登りにかゝる附近から樹木はない。

或は等高線八六〇米附近迄なほ澤を溯り、此處から西に登つても好い。しかしこの登りは傾斜が少し急である。獨立標高九三八米を廻るのが一番樂に登れる。何れも約三時間で頂上に達す。

ヘルベチアヒユツテへの歸路には登りに說明した道の中、何れを採つても好いが、普通には一〇九七米から東に出て居る尾根を降るのが行はれて居る。此の尾根の北側には實によい斜面が多い。ヘルベチアヒユツテからの往復は樂に行はれるので、此の山に登つてすぐその日の内に錢函に降る事も出來る。

天候に惠まれるならば、白井嶽或は余市嶽にまで行程を延す事が出來る。

白井嶽（一三〇一・六米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函

白井嶽は朝里嶽・余市嶽の尾根の間から東に岐れた尾根に聳え、冬期には朝里嶽と同樣にヘルベチアヒユツテから樂に登れ、且つ山腹は素晴しいゲレンデである。しかし夏期の登攀は困難である。

登山の時期及び登路

冬期

ヘルベチアヒユツテから小樽内川に沿ふて下り、股下山の南に入つて居る支流を溯り、逆川の上流に出て、その雄大な東斜面を登つても好い。或はヒユツテから澤沿ひに上り、七八七・九米の三角點の南の二股を左にとり、等高線八〇〇米附近から標高尾根を登つて頂上に達する。

何れを採つても頂上迄、三、四時間を要す。頂上の下は岳樺の疎林で立派なゲレンデである。ヒユツテから一日の往復は樂に行はれる。天氣に惠まれるならば朝里嶽に廻るか、或は余市嶽まで行程を延して、此のヒユツテに歸る事も出來る。或は天狗嶽への尾根を滑つて定山溪に出る事も可能である。

余市嶽（一四八八・一米）

石狩・後志 國境　地形圖　廿万―札幌・岩内　五万―仁木・錢函・定山溪

余市嶽は札幌附近に於て最も高い山である。頂に立つて東を望めば、札幌附近の山々を一望に收め、遠く石狩平野の彼方に本道中央部の山々を望見する。南西に蝦夷富士及び青山温泉附近の山々、西北には積丹半島の山々を望み、北は石狩灣を隔てゝ增毛の山々に對す。實にその眺望は廣く開け、且雄大である。

此の山は夏期登山は餘り行はれて居ない。冬はヘルベチアヒユツテ、或は朝里嶽ヒユツテから

朝里嶽の南の平らな尾根を通つて登られるが、此の山に登つた爲にスキー滑降の興味を增す事はない。ゾンメルシーを使ふ頃、朝里嶽・余市嶽を通つて無意根山の方への尾根縱走は實に愉快である。

登山の時期及び登路

夏期

夏期の登路としては、余市川或は白井川を溯る。何れを採つても登りに二日半、降りに一日半位を要する。勿論露營の準備をして行かねばならぬ。七月中ならば殘雪もあるから之を利用して登れば樂に頂上に達する事が出來る。

余市川を溯るには、小樽市から小樽峠或は毛無山を越して盤ノ澤に出る。此處から川を溯つて頂上の西の鞍部に取付き、微かな刈分を辿つて山頂に達する。

白井川を溯るには、定山溪から出發する。川を溯つて余市嶽西の鞍部に達して頂上に至る。

余市・白井兩川とも地圖に記してない瀧があるが、登路としては余市川の方が樂であるから、こ

れを溯つて頂上に至り白井川に下つた方が好い。尙白井川上流の鑛山は皆廢坑になつてゐるので通洞附近から上流の道は今は全然歩けない。

冬期

冬期登山に於てはヘルベチアヒユツテから朝里嶽（朝里嶽の項參照）に登り、尾根傳ひに獨立標高一二九六米を經て、余市嶽の東北の鞍部に至る。此處から頂上迄約二〇〇米の登りで、雪の狀態に依つては此の鞍部でシユタイグアイゼンに穿き換へた方が好い。ヘルベチアヒユツテから約五時間を要す。

朝里嶽ヒユツテから登る場合は、朝里嶽を經て國境線を步き前記の鞍部に出る。何れにしても吹雪に襲れた時には、朝里嶽の南の尾根は一木もない廣い雪の原であるから、充分注意して、方向を誤らぬ樣にしなければならぬ。

又此の他に盤ノ澤からの登路がある。それは盤ノ澤小學校の南の標高尾根を登り、頂上の西にある瘤の北西に向いた崖の南を通つて、國境線に沿ふて頂上に達する。雪の狀態によつては此の

崖附近をシーデポーとした方が好い。盤ノ澤から一日で往復出來る。此の尾根は非常に高低が多く、變化に富んでゐて面白く滑れる。この登路は朝里嶽及びヘルベチアの兩ヒユッテが出來てから餘り登られてゐない。

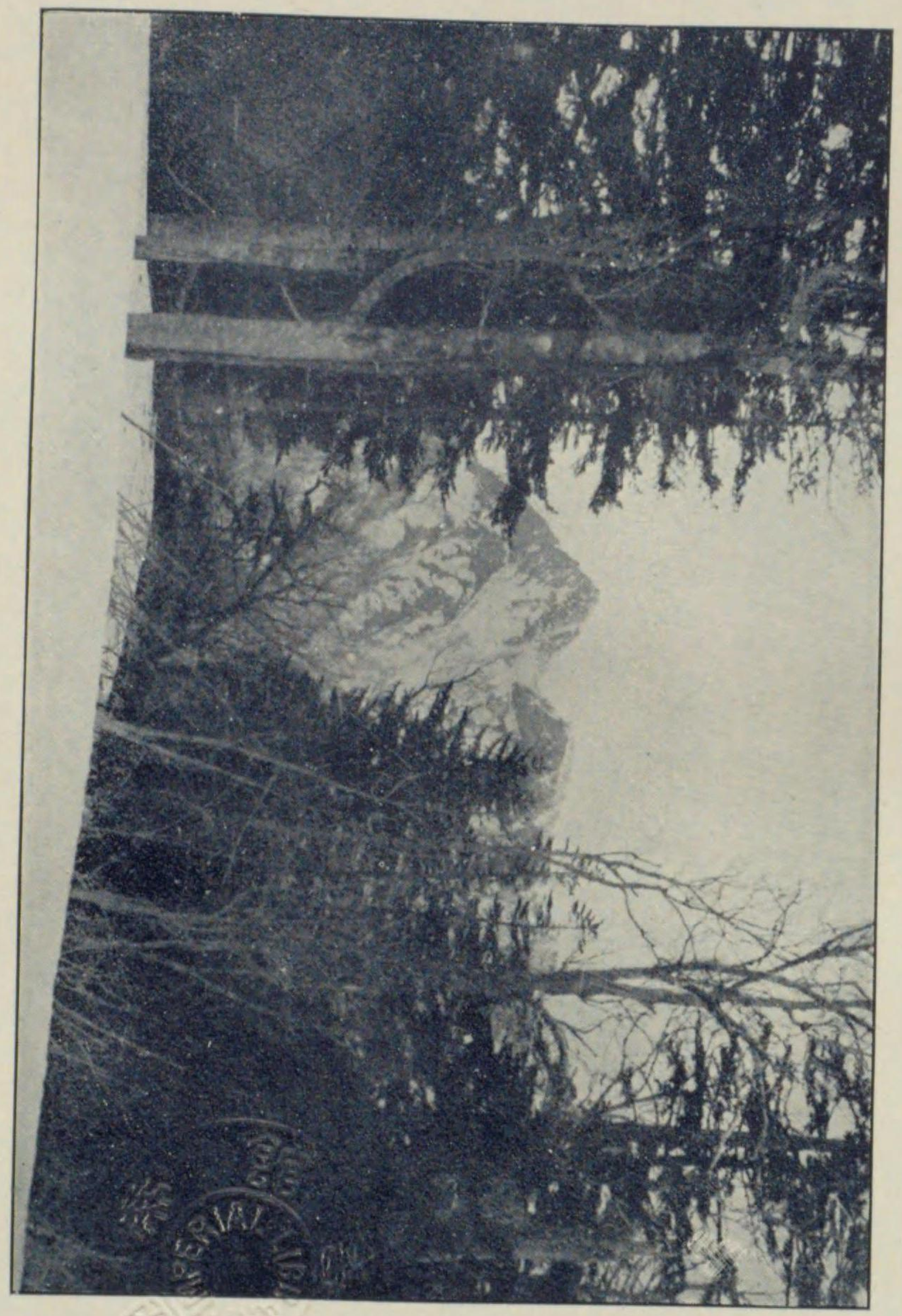
天狗嶽（一一四四・九米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌　五万―錢函・定山溪

この山は普通、定山溪天狗と呼ばれ、三角點のある岩峰が最も鋭く、その西北に尚二つの岩峰を従へてゐる。札幌近郊の大抵の山から、その特異な山容を見得るが、積雪期には特に立派である。

登山の時期及び登路

夏期



春の天狗嶽（札幌近郊）

札幌を一番の電車で出發して定山溪から登つても、一日で往復出來るが、午後から出掛けて定山溪に一泊するか、或は下の澤で露營した方が樂である。定山溪から白井川に沿ふた道を歩いて豊羽鑛山に達する。此の鑛山は仕事をして居ないので荒れた建物だけが氣味の惡い程靜かに殘つて居る。此の附近から右に頂上の岩を望み得る。鑛山を過ぎて道は急に左に曲り、再び右に曲る。この右に曲る附近に橋がある。これに依つて白井川を渡り、左岸を少し登つて小さな澤に入るのである。澤の上の方では右寄に登つて、頂上のすぐ西にある岩の間の草の急斜面に出る。此の斜面を登り詰めて右に頂上まで一寸藪を分けると平らな所に三角點がある。定山溪から約五時間を要す。

冬期

冬期に登るには雪崩などの事を充分考慮する必要があり、又急斜面を登らねばならぬから、長い爪の付いた輪樏及びシュタイグアイゼンを用意せねばならぬ。

定山溪から一日の往復は困難であらう。二月に登頂された記録によると、木挽澤附近の發電所から頂上迄約六時間を要して居る。天狗嶽から東に出て居る澤を入り、頂上の次の岩峰から出て

ゐる尾根を途中まで登り、輪樏に穿きかへて頂上の北の鞍部を經て頂上に達して居る。

無意根山（一四六〇・五米）

石狩・後志 國境　地形圖　廿万—札幌　五万—定山渓

定山渓の西南にあたつて、南北に走る山々の中で一番高く、春晩く迄、眞白な山膚を樹林帶の上に輝かせて居る。夏期に於ける登山は頂上附近の根曲笹と偃松とに登行を阻まれ困難である。冬期には近時定山渓の奥の薄別に溫泉が出來たので、此處に一泊して登山する人が多くなつた。

登山の時期及び登路

冬期

定山渓から約五粁奥の薄別から小川を溯り、一〇四〇米の數字の北東にある瘤の北を廻つて、標高尾根に至る。これを登つて國境線に沿ひ頂上に達す。或は前記の瘤の北、九〇〇米附近から右の

の緩やかな尾根にとり付き長尾山と、標高尾根分岐點との中間で國境線に出て頂上に達する。後者の方が樂である。薄別溫泉から約五時間を要す。小川には川沿ひに小逕があるので、春晩くまで登山は樂である。又、中山ヒュッテから喜茂別岳を經て、尾根傳ひに登る事が出來る。然し天氣に惠まれなければ困難であらう。ヒュッテから五時間位かゝる。

喜茂別岳（一一七六・九米）

石狩・後志 國境　地形圖　廿万—札幌・岩内　五万—定山渓・倶知安・上壯瞥珠

喜茂別岳は、其の北にある並河岳（一二六五米）中ノ岳（一三八七・八米）無意根山と共に、一列に竝び、尾根は喜茂別山で東に曲り、中山峠に續いてゐる。この山も亦、夏期の登山は困難である。近年、中山ヒュッテが中山峠の南に、北海道山岳會に依つて建てられた。

其の位置は水準標八〇六・二六米の南にある橋の下流、七〇〇米の等高線附近である。又小屋番は虻田郡喜茂別村字黑橋、三上喜六と云ふ人で、小屋に行く前には此の人に申込んだ方が好い。

小屋には寢具が備付けてある。

中山ヒュッテに行くには、函館本線倶知安驛で京極線に乘換へ、脇方或は喜茂別で下車する。喜茂別から中山峠を越して定山溪に通ずる道路を約十六粁行くと黑橋に着く。

冬は脇方から山越して黑橋に出る方が、距離も短く且つ面白い。それは脇方から和歌山園体の南の尾根を登つて獨立標高七三四米の北側をへずり、三角點七六九・六米に至り、南東に降つて黑橋に達す。黑橋から猶道路を登り、左に分れて中山基線を通りヒュッテに至る。此の路には指導標がついて居る。定山溪からは中山峠への道路をとり、峠を越してヒュッテに達する。地圖上の中山驛遞は現在ない。

登山の時期及び登路

冬　期

中山ヒュッテから登るには、獨立標高九六四米の東南、喜茂別川の二股附近に一旦下り、九六四米を經て喜茂別岳頂上に達する。

九六四米はその頂まで登らずに、左山で捲いた方が好い。ヒュッテから三時間位を要する。

又脇方から和歌山園体のある澤を溯り、澤の右側の尾根に取付き、是れを登つて頂上に達する。脇方から約五時間を要す。

漁　嶽　（一三一八米）

石狩・膽振　國境　地形圖　廿万—札幌　五万—定山溪・上壯溪珠・樽前山

漁嶽は眼下にオコタンペ湖を瞰下し、支笏湖畔の惠庭嶽に相對して居る。西斜面は緩やかであるが、東はオコタンペ湖及び漁川に急斜面を作つて居る。

豊平川二股に帝室林野局の二股小屋があるが、小屋番は居ないし、又寢具の備付もない。此の小屋は狹薄山の西、豊平川の大きな二股の左岸にある。冬、豊平川上流に造材が入れば、その馬橇道を利用して小屋に行く事も容易であるが、若し利用出來なければ、薄別から中山峠への道を登つて尾根を越して此の小屋に行かねばならない。

登山の時期及び登路

夏　期

漁嶽の登路としては、定山溪から豐平川を溯り、漁入ノ澤を登るのが一番樂である。第一日は漁入ノ澤と空沼ノ澤との合流點上流附近露營、第二日に漁嶽を往復する。三角點八七三・一米の東北の崖の記の處には瀧があるから、左岸を大きく捲かねばならぬ。第三日定山溪に歸る。

漁川を溯るには、北海道鐵道惠庭驛で下車し、途中、川で二晩露營して、三日目に頂上に達する。

漁川は地圖に見る如く、下流の方には逕があつて歩けるけれど、樽前山の地圖に入つて瀧の記より上流、獨立標高五八二米と獨立標高六七六米とを結ぶ線上の二股までの間、澤は非常に惡くその中を歩く事は出來ない。此處は探せばきつと尾根を通る逕があるだらう。漁川に向つた斜面は急であり、且、根曲笹に苦しめられる。

漁嶽頂上からオコタンペ湖（オコタンペ湖の項參照）までは約三時間位で降る事が出來る。それは頂上から僅か東に尾根を絡み、頂上から南に流れる澤を下つてオコタンペ湖に達す。この澤

の上はかなり水量もあるが、傾斜が緩やかになると水は地中に潛つたり、又地表に現はれたりしてゐる。

冬　期

空沼小屋から空沼岳に登り、尾根傳ひに往復する事が出來るが、吹雪にあつたら相當辛いであらう。又前記の小屋から漁嶽を經て東に降り、惠庭嶽の北麓を通つて丸駒温泉に達する事も出來るが、此れも又冬は相當辛いだらう。何れも時期としては三月末頃からが好い。

尚二股小屋を根據として登る事も出來る。

空　沼　嶽　（一二五一米）

狹　薄　山　（一二九六・一米）

石狩・膽振 國境　地形圖　廿万―札幌　五万―石山・定山溪

空沼嶽は札幌嶽の南西にあつて、惠庭嶽・支笏湖・樽前山を望み眺望が好い。頂上まで登山路がある。又空沼嶽の附近には空沼・長沼・眞簾沼・万計沼などがある。万計沼は林に覆れた幽邃な沼で、秋、紅葉の頃は殊に好い。万計沼の畔には、秩父宮家の空沼小屋があり、寢具・燃料の備付がある。小屋使用の希望者は北大醫學部産婦人科教室大野精七氏に申出でねばならぬ。又、空沼小屋のすぐ下に、帝室林野局札幌出張所々屬の万計小屋があり、寢具の備付はないが、燃料は冬期のみ少量を備付けてある。

狭薄山は札幌嶽の南に狭薄澤を隔てゝ相對してゐる。夏期の登山者は少いが、冬期には前記の空沼小屋から登られて居る。

登山の時期及び登路

夏期

空沼嶽に登るには、定山溪電車、石山驛から土場を經て湯ノ澤に、或は藤ノ澤驛から山越しに湯ノ澤に出る。湯ノ澤の人家を過ぎて、逕は地圖では万計沼についてゐるが、新しい路が万計澤

入らずに、なほ澤を登り、次の二股の上から、尾根を通つて小屋に達してゐる。石山驛より小屋迄約五時間。小屋から眞簾沼を通つて頂上まで登山路がある。約一時間半。頂上は偃松が密生し、北及び東の方は崖となつてゐる。

狭薄山は夏期には根曲笹に苦しめられる。狭薄澤、或は狭薄山の頂上から西に流れてゐる澤を登つても定山溪から往復に二日間を要するだらう。

札幌嶽の下の瀧ノ澤に露營し、翌日札幌嶽の登山路に依つて、札幌嶽に登り、狭薄澤を渡つて頂上に行けるけれど、何れにしても六月頃殘雪を利用して登つた方が樂である。

冬期

空沼嶽には、小屋から頂上の東北の鞍部に出て登ればよい。此の往復は樂に行けれ約一時間半である。

狭薄山には、小屋から眞簾沼を通つて、尾根傳ひに頂上に達する事が出來る。約二時間。又二股小屋からも登路を求められる。何れを登つても頂上附近は尾根が細くなつてゐる。

札幌嶽（一二九三・八米）

石狩國　地形圖　廿万―札幌　五万―定山溪

此の山には近年登山路が出來たので、札幌市から定山溪電車を利用して一日で樂に往復が出來る。澤も氣持がよい。又頂上附近には偃松があるので、一日の山歩きとしては、高い處に來たと云ふ感じを強くさせる。頂上の眺めも亦遠く開けて居て、一年中何時行つても面白い山である。

登山の時期及び登路

夏期

定山溪電車、瀧ノ澤驛で下車して簾舞の方に坂を登り、坂の上から分れて瀧ノ澤の開墾地の中の路を歩く。地圖上には獨立標高九四七米の岩の北西までしか路はないが、此の路は延びて頂上まで達して居る。九四七米の西の附近で一時路は澤の中に消えて居るが、又すぐ對岸に見出すこ

とが出來る。此處から路は非常に急になるし、又水もないから水は充分此の澤で用意した方が好い。瀧ノ澤から約四時間位で頂上に達する。歸路は冷水澤を降つて定山溪に出ても好い。冷水澤は歩き易く、又下の方には逕がある。然し頂上附近の根曲笹を分けるのに、降りでも一時間を要する。

冬期

瀧ノ澤から九三六・二米の三角點の南を越して、「一番通」に出る小逕が地圖に記してある。定山溪電車、瀧ノ澤から此の逕を登つて、峠附近から南の尾根に出る。此の尾根に登つてしまへば、後は樂に頂上迄達する事が出來る。瀧ノ澤から四、五時間を要す。又定山溪から冷水澤を溯るか、或は大爺淵に注いで居る三角點九四六・五米の北ノ澤からも登路を求められる。

空沼小屋（空沼嶽の項參照）から眞簾沼を經て、尾根傳ひに樂に頂上に達する事が出來る。約二時間半。頂上のすぐ東は急であるから南にまいて登らなければならぬ。

春の山歩き

四月半頃から五月半頃までは一年中で最も樂な、そしてのんびりした山歩きが出來る。勿論各山とも、それ一つを登つても面白いが、冬或は夏には困難な縱走を、此の恵まれた時節に行ふのは非常に面白い。

此處に參考までに大体の道順と日程とを示したが、その通過する山に就ては各山の項を參照されたい。尙融雪期であるから澤の渡渉は成る可く避けた方がよい。

一、札幌市―百松澤山―迷澤山―奥手稻―錢函驛（一日或は一日半）
二、定山溪―無意根山　喜茂別岳―中山峠―定山溪（一日或は二日）
三、錢函驛―朝里嶽―余市嶽―（美比内山）―（長尾山）―無意根山―定山溪（二日）
四、瀧ノ澤驛―札幌嶽―空沼嶽―漁嶽―中山峠―喜茂別岳―無意根山―定山溪（三日）
五、石山驛―空沼嶽―漁嶽―中山峠―定山溪（二日）
六、石山驛―空沼嶽―札幌嶽―定山溪（或は瀧ノ澤驛）―（二日）

洞爺湖及び支笏湖附近の山岳

總論に述べた如く、此の附近の山々は後志火山彙を構成し、樽前・恵庭・有珠の三山は活火山としてその名を知られ、殊に樽前山は活動旺んである。

又支笏湖及び洞爺湖は共にカルデラにして、前者は水深特に深く、最深部は三八三米に達し、深さに於て我國第二位の湖である。そして支笏湖盆には、その南北兩隅に恵庭嶽及び風不死岳が對立し、洞爺湖盆にはその中央に中の島が峙つてゐる。兩湖とも附近の山岳と共に風光明媚にして、多くの山人を吸收し、又地質・火山等に志す學徒をして研究的資料として讃仰措く能はざらしむるものもある。

洞爺湖（水深一八三米）

膽振國　地形圖　廿万―室蘭　五万―虻田

洞爺湖はカルデラにして、其の特徴として、湖形は圓形で、中央に大小四つの島を有してゐる。湖は周圍の山岳が低い故に陽明快濶である。又湖の落口には壯瞥瀧がある。

湖の南岸に床丹（トコタン）温泉があり、長輪線虻田驛より電車の便がある。こゝが有珠の登山口である。

湖の北岸、向洞爺は湖畔で最も大きな市街地で旅館も立派である。又湖畔中最も景色の好い所で、床丹温泉と發動機船の連絡がある。湖の周圍には道路があるから徒歩で一周するのも面白い。

有珠山（七二五米）

膽振國　地形圖　廿万―室蘭　五万―虻田

有珠山は洞爺湖の南に聳える二重式活火山である。外輪山の周圍は六粁餘、その最高地點は約五四〇米にして、内部に大有珠（七二五米）小有珠（六一一・四米）の二山があり、火口原には銀沼と稱する火口原湖がある。火口原は美しい森林で埋められ、又銀沼附近の風景も惡くない。大有珠は小有珠よりも歴史が新らしく、現在でもその南面及び外輪山北面に噴煙を細々と揚げて

ゐる。山はつまらないが眺望は實に好い。

登山の時期及び登路

夏期

床丹温泉からと有珠村（長輪線有珠驛下車）からと立派な登山路があつて、大有珠の頂上迄は床丹温泉から約四粁、有珠村から約六粁、何れから登つても極めて樂で、二時間もあれば頂上に達す。外輪山にも逕があり、火口内には南北に通ずる逕がある。

冬期

冬期登山は興味多く、頂上附近の岩登りは痛快である。登路は有珠村よりの夏路が最も好い。この附近は積雪量極めて少い地方であるから、スキー使用の範圍は少く、シュタイグアイゼン携帶を必要とする。

大有珠の登りは、火口原より西面の崖を登れば仲々興味が深い。

支笏湖（海拔 二四八米 水深 三八三米）

膽振國　地形圖　廿万－札幌　五万－樽前山・白老

支笏湖もやはりカルデラである。後に至つて北方に惠庭嶽、南方に風不死岳（フップシ）が噴出したため、中央がくびれて湖は瓢形を呈するに至つた。ヒメ鱒・ニジ鱒の產地として名がある。周圍に多くの名山を有し、又其の森林美と相俟つて、多くの山人を吸收せずには措かない。水は透明で、フオレル氏液第二號液に相當する。オコタンペ及びピプイの兩川、湖に注ぎ、湖はその東部で切れて千歳川の水源となつてゐる。この落口は湖畔と呼ばれ宿泊所等があり、王子製紙材木運搬の輕便鐵道の終點である。

札幌方面より入るには、北海道鐵道（苗穗・沼ノ端間）惠庭驛か千歳驛にて下車、更に王子製紙會社經營第四發電所（惠庭驛より八粁 千歳驛より六粁）より同社の專用鐵道に乘る。又、室蘭方面よりは、室蘭線苫小牧驛より王子製紙會社經營の專用鐵道に乘る。

樽前山（一〇二三・八米）

膽振國　地形圖　廿万－札幌　五万－樽前山・白老

山容は實に秀麗であつて、單調なる室蘭線の唯一の名山である。外觀は二重式の樣に見えるけれども、實は三重式活火山である。外輪山の最高點は東部にあつて、一〇二三・八米を算し、現在噴煙をあげつゝあるドームは、火口原を拔きんでる事約一〇五米に及ぶ。（三角點は外輪山の最高點にあるが、樽前山の最高點はこのドームである）六〇〇米附近で森林は影をひそめ、それから上は植物無き廣大な岩石の斜面である。そして大小數十條の涸澤が麓に向つて走つてゐる。

登山の時期及び登路

夏　期

登路を便宜上、北側と南側とに分けて說明する。どの方面より登つても、傾斜が緩く、非常に

樂な山である。

A.北側（支笏湖側）よりの登路

千歳川發電所でダムを高くしたので、湖の水面著しく高まり、爲に湖畔よりモラップ及び恵庭山麓に至る道路は、破壊され通行不可能となつた。又丸駒温泉もこの厄に遭ひ、舊浴槽は現在湖水中にある。登山者にとつても相當の不便を與へた。

（一）「モラップ」よりの登路

モラップ山南側に數軒の人家がある。この邊りを「モラップ」と稱する。湖畔より「モラップ」迄船の便がある。登山路は「モラップ」より森林に入り、大体標高尾根に沿ふて二、三の涸澤を横切り、外輪山の西北部に達する。それより外輪山を東にめぐつて最高點一〇二三・八米に至る。約六粁、二時間乃至三時間を要する。「モラップ」より指導標がある。

尚、モラップ山南側、圖上の小逕は刈分けが不明瞭であるから、登路としては好くない。

（二）「シシャモナイ」澤よりの登路

シシャモナイ澤は風不死岳の西側の澤である。湖畔より舟で澤口に達し、木材搬出路を登る。

途中から水のある澤に出で、それを溯ると涸澤になる。その涸澤を登り詰めると裸地に出る。それからは外輪山迄わけなく登れる。澤の入口から三時間と見れば大丈夫で、この登路は非常に眺めが好い。

又この澤の東方、シルス涸澤の左岸に沿ふて森林を登つても、裸地で前記の登路と合する。尚多峰古峰（タップコップ）の臺地に記入の逕は、社臺方面へ越える位のもので、上部の刈分けは不明瞭であるから降るには降り得るであらうが、登路としては不適當である。

B.南側（覺生澤（オボップ））よりの登路

室蘭線錦多峰驛（ニシタップ）より西、約二粁にして登山口に至る。そこより覺生川に沿ふて登山道路（指導標があるが、圖上では路が途中までしかない）を登る。登路の半分は大きな涸澤の中を行くのであるが、この澤の入口で清冷なる湧水を得られる。錦多峰驛より外輪山最高地點迄、約十六粁、五時間乃至六時間で登れる。

尚ドームへ登るには北面だけしか登れない。頂の南部に大きな噴火口があつて旺んに噴煙をあげてゐる。

冬　期

冬期は湖畔に至る輕便が不通になるから、錦多峰側より登る他はない。登路はやはり夏と同樣覺生涸澤を行けば好い。一日で樂に往復出來る。積雪はこの附近一帶少いからスキー使用の範圍は狹く、時期としては最も積雪の多い三月を撰ぶ方が好い。裸出地帶が多い爲め、雪は大抵硬雪となつてゐるから、シュタイグアイゼンを携帶した方が樂である。若し無風、新雪のコンディションに遭遇するならば、一里餘の外輪山の滑降は素晴しいものであらう。

風不死岳（フツプシ）（一一〇二・五米）

膽振國　地形圖　廿万—札幌　五万—樽前山

其の男性的な山容は支笏湖の一偉觀ではあるが、其の地形の關係上、登山記錄は極めて稀である。

登山の時期及び登路

夏　期

夏期の登路としては支笏湖岸よりは不可能で、南側の樽前山より續く尾根を登る。九三一米から頂上まで三時間と見れば大丈夫である。錦多峰側から一日往復は困難であるが「モラップ」からならば、強行ではあるが可能である。其他シシャモナイ澤東方のシルス大涸澤の左岸を登り、南西の尾根より登頂、北面を支笏湖に降つた記錄がある。

冬　期

登路はやはり九三一米から尾根を行くのであるが、シュタイグアイゼンと輪樏を携帶して行つた方が安全である。

錦多峰より入り樽前山に登り、九三一米附近でキャンプをなし、風不死岳に登り、錦多峰へ降るのは面白い計畫である。時期は三、四月が好い。

惠庭嶽（一三一九米）

膽振國　地形圖　廿万―札幌　五万―樽前山

惠庭嶽は活火山であつて、山頂には大なる噴火口があり、その東部より少量の噴煙をあげ、晴天には遠く札幌市からも望み得る。又頂上の眺めは實に廣く、殊に西側、オコタンペ湖の俯瞰は好い。

登山の時期及び登路

夏期

湖畔から登山口迄は舟で行かなければならない。それは湖畔より惠庭の東麓へ至る道が、湖面上昇のため破壊されてゐるからである。登山口は、地圖標高二六〇米記入の附近で、こゝから立派な登山路があり、中腹には休憩小屋もある。この路によつて緩傾斜の森林地帯を行き、頂上よ

り東下する大なるポロピナイ涸澤を北岸に渡り、この涸澤の北側の尾根を登り詰める。最後のドームは、西北の割目より登頂する。登山口から三時間もあれば樂に登れる。

この他にポロピナイ涸澤を登る登路もとれるが、これは相當の苦心と時間とを要するも、最も興味ある登路であらう。時間は四時間乃至五時間は見るべきである。殘雪を利用すれば一層面白い事と思ふ。

尚オコタンペ湖側の澤から登頂した記録もある。

惠庭嶽登山には、湖畔又は丸駒溫泉で泊る。この溫泉は湖の北岸、惠庭嶽東南麓にあつて、實に靜寂な氣持の好い處である。又登山口附近も氣持の好い處であるから、その附近にキャムプすれば一層面白い。

冬期

登路は夏と同樣湖畔方面から入るのも好いが、興味の點から言へば空沼小屋（空沼嶽の項參照）から空沼嶽を越え、漁嶽を經て丸駒溫泉に一泊し、翌日惠庭嶽へ登る方が好い。

尚漁嶽から丸駒温泉へ降るには、漁嶽と惠庭嶽とをつなぐ尾根を降る。そして三角點九六八米の次の小さな瘤より漁川の支流を横切り、六七六米の南の澤を下つて湖に出で丸駒温泉に至る。丸温駒泉よりは惠庭嶽と六七六米との間の澤の眞中の澤より尾根に出で、オコタンペ湖の東側の尾根（惠庭嶽北西部に出てゐる尾根）を登る。この斜面は非常に急で又ブツシユも多いから、九〇〇米以上はスキーで登ることは困難となる。故に輪樏或はシユタイグアイゼンを使用しなければならない。最後のドームは西北面の割目即ち夏路に沿ふて行けばわけなく登れる。丸駒温泉から往路五時間、歸路二時間半か三時間見れば充分である。

以上は春に行ひ得るもので、眞冬なれば相當困難である。支笏湖附近は積雪が比較的少ない地方であるから、雪の少ない年ならば四月上旬迄、多い年で中旬迄が時期としては適當である。

オコタンペ湖（海拔五七二米）

膽振國　地形圖　廿万―札幌　五万―樽前山

オコタンペ湖は惠庭嶽の西麓にあつて、西に漁・小漁の連山を仰ぎ幽邃な湖で、その色は氣味惡い程青い。この湖にはザリガニ、サンシヨウウヲの他、魚屬は棲息してゐない樣である。こゝより落ちる水は即ちオコタンペ川となり、支笏湖に注いでゐる。落口は直ちに瀧となり、傾斜が緩くなるまでは兩岸は崖で增水の時は相當困難する場所であるが、普通の狀態ならば大体心配もなく通過出來る。

オコタンペ湖へ行くには、普通舟でオコタンペ川入口に達し、これより溯行、湖に至るのである。尚丸駒温泉からオコタンペ川入口迄の陸路は破壞されてしまつてをり、この間は少くとも一日行程であるから舟を利用する方が好い。

支笏湖岸よりオコタンペ湖迄、登り四時間、降り三時間と見れば好い。湖のキヤムプ地は西岸の砂地以外に適當な場所はない。

歸路はオコタンペ湖より漁嶽に登り、定山溪へ出るか、又湖の東北側の最低部を越して漁川に降つて歸る事が出來る。湖から漁嶽頂上迄は五時間あれば好い。

注意事項

オコタンペ湖の南側附近に、地圖に崖の記入があるけれども、崖と思はれるものは更に無く、湖の周圍は歩ける。又オコタンペ川下流の瀧の符號は落口に記入さる可きものである。

徳舜瞥山（一三〇九米）

ホロホロ山（一三二二・四米）

膽振國　地形圖　廿万―苫小牧
五万―徳舜瞥・登別・上壯溪珠・虻田

徳舜瞥山及びホロホロ山は洞爺湖と支笏湖との間にある。そしてその西南の尾根は、約一〇〇米内外の標高を保つて南西に延び、オロフレ山（一二三〇・八米）登別山（一〇〇一米）の二山と連つてゐる。

室蘭線より眺めたこの山の姿は、仲々立派である。位置の關係上、この山の登山記錄は極めて

稀である。

登山の時期及び登路

夏期

登山道路がないから澤を登る他はない。しかし左程困難でない。室蘭線長流驛（伊達紋別驛の次驛）に下車するか、或は伊達紋別驛にて下車する。長流驛より壯瞥・久保内・蟠溪溫泉を經て徳舜瞥に至る。この行程約三十六粁。（伊達紋別驛より壯瞥村瀧ノ下迄自動車の便あり）

徳舜瞥村役場より進む事約一粁にして溪流（架橋）あり。この溪流を溯つて頂上に登るのであるが、橋の所から約五粁の所にホロホロ瀧（？）がある。この瀧を絡んで攀登り、ナヽカマド・ダケカンバ、ハイマツ等の林を左方に登ると徳舜瞥山に達す。

晴天なれば前方遙に室蘭線、太平洋、樽前山、オロフレ山等を望む。又後方を振りかへれば、蝦夷富士が巍然として聳えてゐる。

頂上附近各所にイワウメ、ミネジワラ、イワヒゲ、コケモモ、ガンコーラン等の群叢の小体あ

り、植物遷移の狀を視るに非常に興味ある。

ホロホロ山はこれより東方約一粁の三角型をなせる嶺にして、殆んど行く者なし。若し壯擧を企てるならば、非常に急な岩の傾斜であるからザイルの必要がある。又室蘭線白老驛より白老川を溯行、赤川の一つ上の澤を溯り詰めて、ホロホロ山の頂に達し、更に尾根傳ひに徳舜瞥山に至る登路もある。

大体に於てこの二山の興味は夏期の登山よりもスキー登山にある。

冬　期

登路は夏期と同樣であるが、次の樣な面白い登路も採れる。

室蘭線登別驛より登別温泉を經てカルルス温泉に至り、これより登別山（一〇〇一米）に出でオロフレ山を經、更に一〇七一・四米及び一一〇二米を經て、頂上に達するのである。カルルス温泉からの一日往復は可成强行であるから、尾根でキャムプして更に歩を延し、東尾根を下り一〇六一米より瓦斯山（四八五・一米）を經て白老に降るのも面白いであらうし、又九〇九・六米

及び三四六・七米を經て當別か飛生（トビフ）に出るのも好い。この外に最も面白いとは思れるのは、頂上北東の尾根を降り、白老川上流の最低部を經て樽前山に出で、樽前・風不死岳に登つて錦多峰に降るのである。天候さへ好ければ二晩か三晩のキャムプで樂に登れると思ふ。時期としては三月より四月上旬迄が好い。

オロフレ山（一二三〇・八米）

登　別　山（一〇〇一米）

膽振國　地形圖　廿万―苫小牧　五万―徳舜瞥・登別

ホロホロ山より南西に延びた尾根上にあり、兩山とも登山路なく、夏期は相當登山困難なるも春、三、四月の頃は割合樂な愉快な登山が出來る。

登山の時期及び登路

夏　期

オロフレ岳へは室蘭本線登別驛下車、電車を利用し登別温泉（電車賃五〇錢）に到り、それより更に約十四粁にてカルヽス温泉に到る。（自動車の便あり約四〇錢）カルヽス温泉より約三粁にして千歳川（登別温泉入口の溪谷）の上流に出で、その溪流（水流速くして大石あり、その石の上を傳つて溯る）を溯る事約一粁にして、屏風の如き岩壁を望む。その岩壁の右手を攀登り（これより道路なく竹木繁り登行少し困難なり）登別山（獨立標高一〇〇一米）に達す。そこよりオロフレの三角山が眼前に見える。それを目標として雜木林を排して進む。山頂近くは高山性の小灌木にて登行容易なり。

別の登路として千歳川上流を更に約一粁登れば、崖崩れの終點に達す。その左右何れにても登れば御花畑に出る。此の附近には飲料水全く少く、その終點近くに一個所湧水あり、その南端に一昨年室蘭土木事務所の國立公園連絡道路の測量の爲め刈分け道あり。（約一間幅、注意して發見すると便利なり）此の連絡道路は洞爺湖に至るものにして、この完成の曉には登行非常に便なるべしと云はれる。この路について進めば約三粁にしてオロフレの山頂直下（約三〇〇米）に

出づ。それから上は路もなく、ブッシュをこぐのである。御花畑及びオロフレ山頂上には、ミネジワラ、イワウメ、コケモモ、イワヒゲ、ツガザクラ等がある。

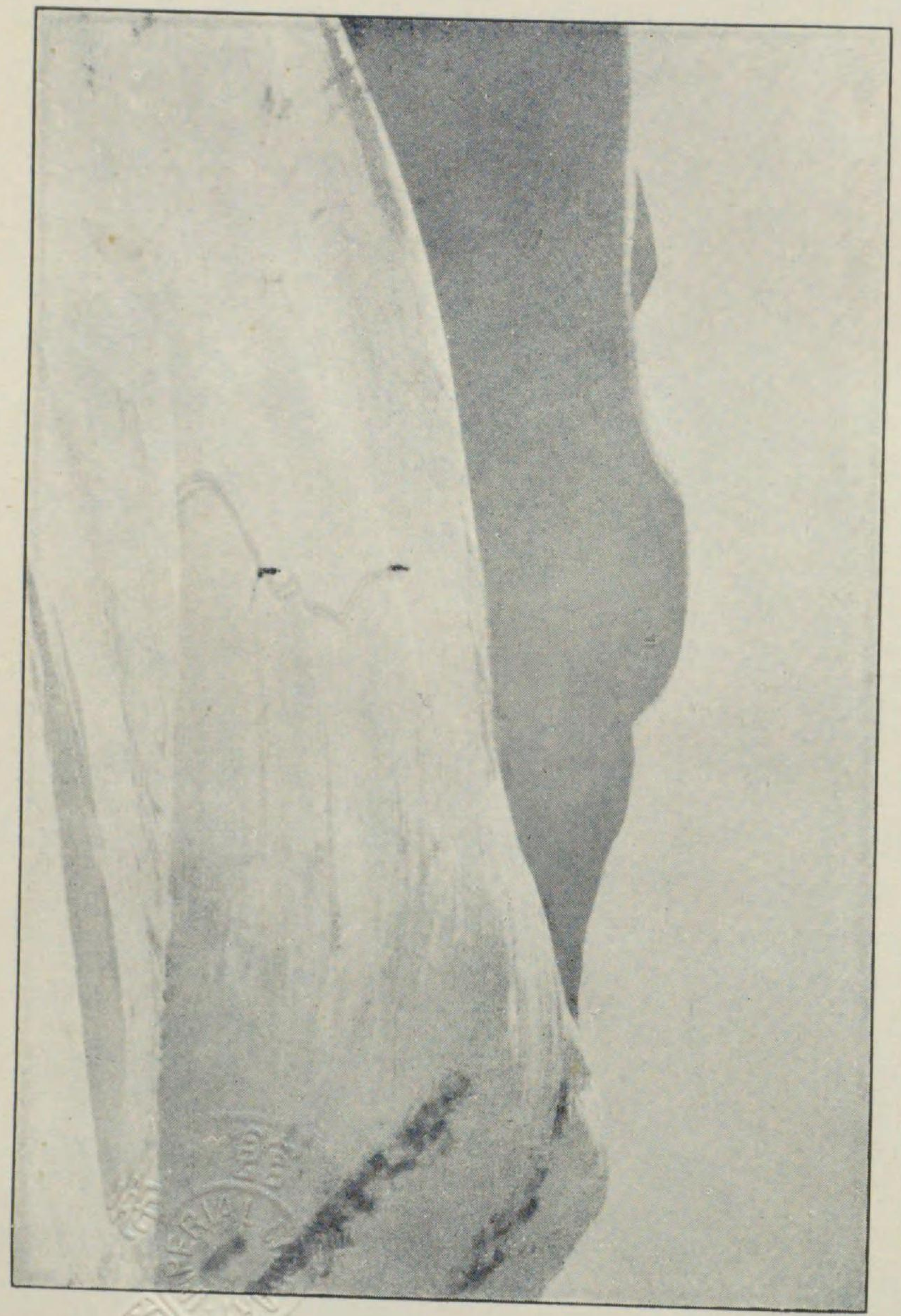
冬　期

登路は夏期と同樣。詳しくは、徳舜瞥山の項參照。

注意事項

登山の際、カルヽス温泉にて案内人一人同行すれば頗る便利にして、徳舜瞥山・ホロホロ山に至る最捷徑を知る事が出來る。

オロフレ山頂には飲料水無く、又溪谷の水は全体に不良なる水につき、飲用不可能、注意を要す。



一月の暑寒別岳　（増毛山塊）

増毛山塊

日本海に面する北海道西海岸の山群中最も高度の大なる山群であつて、その數座の平均高度は約一二五〇米である。山勢は概して緩く穏やかにして、峻嶮なる山貌を有する山は一つもない。又本道中、倶知安附近と共に降雪量の最も大なる山地である。札幌近郊、手稲山の雪が大半消えかゝる五月中旬に於ても、この山塊は眞白な山膚に輝き、海を越えた北の一角に聳えてゐる。故に札・樽にては比較的山に興味の少い人達にも奇異の眼を瞠らしめる所である。本道に於てゾムメルシーで山地縦走が試みられたのはこの山塊が嚆矢であつて、之は山勢や積雪の關係からだらうと推察されるのである。

この山塊は、極く一部の逕の他全く登山路がないから、夏期は殆んど登山が行はれてゐない。しかし積雪期ならば、登山は非常に容易であり、スキー登山が屢々行はれてゐる。

森林は概して疎である。大体一〇〇〇米迄で盡き、約一〇〇〇米から偃松が生育し始め、笹は

その全部を蔽つてゐる。

この山塊に屬するものは、暑寒別岳・南暑寒岳・惠岱(エタイ)嶽・群別山・知來岳・濱益嶽・濱益御殿・雄冬山等である。尙南暑寒岳の東方に雨龍沼がある。

暑寒別岳（一四九一・四米）

石狩・天鹽 國境　地形圖　廿万―留萠　五万―留萠・國領・雄冬

暑寒別岳はこの山塊中の最高峯である。頂上は三角點のある南端から東北に平な廣い長椅圓形の草地となつてゐる。夏期休暇に行ふ樣な比較的大きな登山に適する山ではないが、附近の好山家や青年團によつてかなり登られ、又一般からも非常に親しみを持たれてゐる山である。

登山の時期及び登路

夏期

未だ完成された登山路なく、夏期は暑寒別川を溯る登路を採る。近く恐らく完成されるのではないかと考へられるのであるが、山ノ神から二ノ澤（山ノ神の臺地の中央から出てゐる澤）と一ノ澤（二ノ澤のすぐ東の澤）との間の尾根を登つて、その上の臺地の略々北端迄約五粁の間、逕がつけられてゐる。

留萠線終點增毛驛に下車、街を海岸と並行に一粁程行つて橋を渡り、すぐ左に折れて暑寒別川に沿つた道路を奥へ進む。その川奥の最終の村、山ノ神迄約六粁ある。山ノ神からその先の二股迄細逕が續き、この二股から初めて澤歩きになる。川は至つて簡單明瞭で、三角點一〇七三・三米の山から來る澤、及び濱益御殿から來る澤の二つを除けば著しい澤は流込んで來ない。溯行は順調に進み、三角點七二七・九米の巨岩塊まで山ノ神から六時間位要し、增毛町を早朝出發すればこの邊に露營することになる。次の日は頂上迄三、四時間であり、午前中に達する。頂上近くなつてから澤を右寄りにとつて、頂上西側の崖の南下端に出る。併しこの崖を頂上の眞下から這ひ登つて頂上に出るのも愉快である。頂上からは再び溯つた澤を降りて暑寒別川の露營地に戻る。以下、川を下つて山ノ神に出る。尙頂上から、箸別川（バシユベツ）或は三角點一〇七五・九米の西の澤を下つ

ても好い。箸別川にはその下の二股附近から山ノ神に拔ける逕がある。

冬期

冬期スキー登山を行ふには、山ノ神から出發するのが便利であつて、そこからならば一日で頂上を極め下山することが出來る。

山ノ神から二ノ澤（夏期の項參照）を登り臺地に出る。その臺地は殆んど眞平で、針葉樹の喬木と濶葉樹との疎らな混淆林になつてゐる。臺地は略々四粁ばかりでその先は狹まり、狹長な尾根になる。針葉樹の樹立は三角點一〇七五・九米の瘤迄續いてゐるが、次第に疎らになり、その瘤から上は岳樺ばかりになる。この尾根は丘陵性の尾根ともいはれる程なだらかなもので、只長いだけである。一〇七五・九米の瘤を過ぎてから次の瘤はその東側を通り鞍部に着く。その瘤の東側の最後の岳樺のかたまりに來る頃は時間からしても此所で晝食にした方が好い。鞍部から頂上北端迄は約四〇〇米の登りで傾斜もあり、約一時間を要す。頂上北端から南端の三角點へ行く。山ノ神より約六時間を要す。

頂上からは南東に嫩やかな南暑寒岳が見え、その更に東には雨龍沼の平や、恵岱嶽の臺地が寶庫を想はしめる如くひつそりとしてゐる。又西南方には、群別山、知來岳の二山が稍鋭い尾根の線を畵き、雄冬山の方は何處も丸味のある斜面を展げてゐる。

降りは登りの尾根を引返す。鞍部から臺地の端迄は登りのスキーの痕に入つて滑れば素晴らしく早い。臺地の森林中もスキーの痕に入れば、時々兩杖で推しやる程で音もなく滑つて行く。下降は二時間もあれば山ノ神に歸着する。

注意事項

多くの場合、頂上迄スキーを用ゐられるが、鞍部より手前で既にシーデポーにしてゐる例があるから、都合のつく限りシュタイグアイゼンを用意せられた方が好いと思ふ。

頂上北端から尾根が二つに岐れてゐるので、ガスがかゝつて先が見えない時は東の標高尾根に下る傾きがあるから下山の際注意されたい。

山ノ神を出發點とする時は、そこの小學校か農家に泊るより他なく、小學校は休みの時ならば

教室を貸して貰へる。

群別山（一三七六・三米）
知來岳（九八八米）

石狩〜天鹽 國境　地形圖　廿万—留萠　五万—留萠・國領・雄冬・濱益・西徳富

群別山はこの山塊中では、その西方の知來岳と共に比較的、狹い頂上、細い尾根、急斜面をもつてゐる。夏期は暑寒別川を溯るより他はない。その上、暑寒別岳、或は濱益嶽の方へ行くとしても、尾根は笹と偃松で敷きつめられ、尾根歩きは望が薄いから、登るもの全くなく、暑寒別岳に興味を奪はれてゐる。

冬期も亦孰れよりするも一日では全然登れず、又登られた記錄もなく、露營までして強いて登る程の興味はない。併し冬期スキー登山を行ふ積りならば武好驛逓より入り、雄冬山・濱益御殿・濱益嶽と大体尾根を傳つて、群別山近く、石狩側に露營し、翌日登頂、更に雪稜を傳つて知來岳

に登り、再び群別山に引返して露營地に戻る。群別山鞍部からの約二六〇米の登りは約一時間それより知來岳迄一時間半を要す。正午前に露營地を出發し得るならば、その日の中に武好驛逓に歸るのは左程難しくはない。尙鞍部からの脊稜及び知來岳に續く雪稜は細いのでスキーは使用困難である。そして又鞍部からの登りは尾根の西南側を通らなければならない。

雄冬山（一一九七・六米）

濱益御殿（一〇三八・六米）

濱益嶽（一二五七・七米）

石狩｝國境　地形圖　廿万－留萠
天鹽｝　　　　　　　五万－留萠・國領・雄冬・濱益

この三山は山塊中でも又一段緩い山である。今は廢道になつてしまつてゐるが地圖に見られる如く、小徑が雄冬山と濱益御殿の頂上を越えて海岸の幌に下つてゐるが、此は元來山道で鐵道の不完全な頃には往來がかなりあつたものである。それほど普通の丘と變らない斜面をもつた、一

向山らしくない笹山である。

勿論登山と云ふ程の山ではなく、夏期は殆んど登る者がない。若し登らうと思へば、濱益御殿迄はその笹などに蔽はれた舊の逕を苦心して探し求めながら登ることが出來るだらう。

併し冬期は、武好驛逓からこれらの山にかけた附近は實に良好なゲレンデであつて、驛逓に滯在して附近のゲレンデに遊び、氣が向けば濱益嶽あたり迄登つて來ても面白い。驛逓からならば樂に一日で行つて來られる。殊に雄冬山から武好橋への下りは面白いに違ひない。

武好驛逓及び附近山道

海岸からのダラ〳〵上り、笹の濃く茂つた丘岡（をか）を縫ふ路、驛逓附近の熊笹の波を越して曠く展けられる山景色、川口に開ける僅かな平に屯ろしてゐる、戸數の極めて尠い、貧しい漁村への下り、切開く餘裕のない斷崖に遮ぎられたため、漁村から漁村を絡ぐ陸路なる山道等、それらを通じて享ける彷徨の侘びしさを愛でる、旅行者にとつては適はしい所である。そこで、增毛から石狩町を經て札幌に出る四、五日程の旅行を奬めたい。

それには先づ増毛驛に汽車を棄て、街を通り抜けて海岸に出る。それから四粁程海岸傳ひに、別刈の漁村に着く。此處で海岸を離れ小逕を丘へ登る。その丘の逕はかなり曲折して笹原を進み、八粁ばかりをゆつくりした歩調で行くと、やがて武好驛遞に着く。交通も頓に減つてしまつた現在は、その驛遞は誠に寥れた姿になつてゐる。その日は驛遞に一泊、山わさびに舌鼓を打つ。

翌朝驛遞を立ちその日の宿、幌（ポロ）迄約二十四粁を歩く。驛遞からすぐ天狗岳の東南の裾を廻り、武好橋に出る。増毛山道は今は辿るよすがもないから、そこから西に折れて岩老の漁村に向つて下りる。それから雄冬迄は濱傳ひで、裏山の迫つた狭い濱に建てられた漁師小屋を窺ひ見ながら雄冬に出る。雄冬からは廣らく行會ふ人もない雄冬山道に掛り、その七粁程の山道を終へて千代志別に着く。その日は更に歩を進めて幌に泊る。以下、送毛（オクリゲ）山道、濃晝（ゴキビル）山道を越して厚田町に出で、次の日石狩町を經て札幌に到るのである。

春の山歩き

夏期・冬期共に夫々の理由から困難であつた山塊の一巡も春には容易に行はれ、それ處か非常

に愉快な山塊巡りが出來る。その一巡を武好驛遞より始めるか、暑寒別岳を最先に登るか、その山旅の最後を考へると共に捨て難い所がある。その登路には難易はないから、各自好む方を撰ばれたい。此處では武好驛遞から廻る方を述べる。

第一日は武好驛遞に泊る。第二日は雄冬山に登り、濱益御殿には登らずに、その北東の緩い腹の岳樺疎林中を横切つて濱益嶽を登り、群別山の眞下に露營する。次の日群別山、知來岳の登攀を終へて尾根傳ひに暑寒別岳に向ふ。南暑寒岳に向ふ積りならば、露營は暑寒別岳の南鞍部附近になるから此處に荷を置いて南暑寒岳に向ふ。順調に行けば第四日は暑寒別岳を越して山ノ神に下山する。臺地の南端から路があるから雪が消えて居ても大丈夫である。時期は六月上旬迄はゾム・メルシーが用ゐられる。

惠岱嶽（一〇六〇・五米）

雨龍沼

石狩國　地形圖　廿万―留萠　五万―妹春牛・瀧川・國領

雨龍沼附近は踏込む方が少しどうかしてゐると思はれる程太い根曲り笹の叢で、その笹原を通るなんて夢にも思はれない。その實に廣い臺地の北東の一端が即ち惠岱嶽である。附近一帶は高位泥炭地と見られ、所々に小沼を藏してゐる。その登路のペンケペタン川と惠岱別川は共に崖に富み、瀧の數も多く澤歩きの困難はあるが面白い所である。冬期は全く訪れる者すらない。

江部乙驛下車、尾白利加川の奥、國領に一泊。そこよりペンケペタン川合流點まで道路を傳ひペンケペタン川に入る。約五、六時間で川を溯りきつて沼の畔に出で、此處に露營する。まさに臺地にならうとする所の瀧から沼迄は地形圖では僅かの登りになつてゐるが、實際は可成りの登りであつて、又雨龍沼それ自身も地圖の如く大きくない。惠岱嶽にはこの臺地を突切つて行く術は全くない。沼の北緣を廻つて沼の北部に行き惠岱別川の支流（三角點七七五・五米の尾根の東を流れる澤）に下る。沼からその澤迄の間は覺悟して居た獰猛な笹を三時間程漕がなければならない。その支流は上部は緩く、六〇〇米位の所に瀧が二ツ相繼いである。その瀧より本流出合迄は一時間程である。若し暑寒別岳に登るならば、本流をその眞下迄溯りつめれば好いし、さもなくば川を下つて歸路につく。その出合より一粁半程川下、地形圖上の崖に三段の大瀧がある。一

寸見ると通れそうもないが、澤の中は南側を容易にへづる事が出來る。それより下は澤は割合樂であり、途中澤に露營し、その翌日午後和に着き、乘合自動車で妹脊牛に出る。

大雪山彙

大雪山彙は、本道の中央部、旭川市の東方約四五粁にあり、ニセイカウシユペ山と共に、中央高地の大動脈の一つである石狩川の口を扼して聳立する。この山彙は、又、ヌタクカムウシユペ山とも呼び、本道の最高峰、旭岳を盟主とする標高二〇〇〇米内外の山々の一群である。本火山彙はその雄大な山容に於て、又、植物・動物・地質學等の研究の對象として、古くから世に知られてゐたが、近年黑岳及び旭岳に登山小屋が設けられ、且つ交通の便、登山設備の發達と共に夏期に於ける登山者の數は著しく增加してゐる。

大体二〇〇〇米の高原の上に、底の平らな長徑約二・三粁、短徑約二粁の舊噴火口があつて、その周圍に黑岳・凌雲岳・北鎭岳・比布岳・愛別岳・永山岳・熊ヶ岳・旭岳・北海岳・白雲岳・赤岳・烏帽子岳等十數座の山々が群立してゐるのである。故に、一度黑岳或は旭岳の小屋に達すれば、それちの山々に登ることは樂に行はれ得るのである。北海道の山歩きには登山路の無いことが非常に登山を困難にするけれど、此の山彙には、山麓の溫泉から小屋まで立派な登山路が作られ、又前述の兩小屋を結び、北海岳・北鎭岳・比布岳・永山岳・白雲岳・旭岳等へは登山路があり、指導標の棒も建てられてゐる。その絨毯を敷きつめた樣な柔かなお花畑は殘雪の輝きと共に我々を喜ばせる。山麓を覆ふ幽邃な針葉樹林帶を通つて岳樺の疎林となり、遂に眼界は遠く中央高地の深い山々にまで啓け、仰いで山頂を見、伏してお花畑に醉ひ、かくて山頂に立つ時の我々の心は如何に晴やかな喜びを持つことであらう。

大雪山彙の植物　本山彙高山帶に生ずる植物は、其の數から言つても、その群落狀態から言つても、邦內唯一のものであらう。殊に千島火山系の植物分布から考へると、分布學上より見ても極めて重大なる地點である。北海道高山地帶植物の大半はこゝに得る事が出來よう。珍らしきものとしては

ムラサキカウライメシダ、マルバヤナギ、エゾマメヤナギ、マルバギシギシ、エゾミヤマツメクサ、カンチヤチハコベ、ヒメイハベンケイ、ダイセツトウチサウ、ヒメイソツツジ、ホソバウルツプサウ、ビロウドシホガマ、エゾハヽコヨモギ、ダイセツヒゴタイ、クモマタンポポ、

ユキワリガヤ、ナンブソモソモ、エゾミクリゼキセウ、ヤチギバウシユ等。
それ故天然記念物に指定され、天然記念物調査報告植物の部第十二輯に中井博士の報文がある
又蝶にはダイセツヒカゲ、ウスバキテフ、アサヒヒヤウモン、カラフトルリシジミ、クモマベニヒカゲ等が珍らしいものである。

登山口としては、層雲峡温泉、松山温泉、及び直井温泉の三つがあり、層雲峡温泉からの登山が交通の便利な爲、最も多く行はれてゐる。

一、層雲峡温泉には石北線、上川驛から乘合自動車に依つて石狩川に沿ひ、馳ること約一時間にして着くことが出來る。自動車は五月上旬から一日三往復運轉し、料金は一圓。尙近時、層雲峡温泉から更に奥、小箱まで自動車道路が開かれた。層雲峡温泉には、層雲閣、登仙閣、國澤温泉があり、又、登山案内組合もある。此處が黑岳への登山に一番便利である。

大雪山の山開きは、年によつて多少の遲速はあるが、六月末か、七月初めに行はれる。山開き後、九月半頃まで登山小屋は開かれてゐる。

黑岳小屋は桂月岳（黑岳の項參照）の南に在り、小屋番が居て、炊事もやつて貰へるが、自炊することも出來る。小屋代は一泊、毛布付きで五十錢、食事は一食五十錢。

尙、小屋の開いてない時期（五月とか冬など）に使用するには、旭川營林署に申込まれたい。

二、松山温泉に行くには、富良野線、美瑛驛から志比内(シビナイ)を經て約三〇粁、或は、旭川市から電車に乘り、東川驛下車、自動車に乘換へて發電所まで行き、そこから約二十粁の道を忠別川に沿つて歩かねばならぬ。

松山温泉は忠別川の谷間に在る一軒家の温泉で、こゝから旭岳への登山路があり、又、旭岳の下には登山小屋もある。又、此處からトムラウシ山に至る登山路も開かれてゐる。

旭岳小屋は、旭岳の西南、姿見池（旭岳の項參照）の畔にあつて、旭川森林事務所の管理となつてゐる。夏期小屋に巡視人が居るが、黑岳小屋の樣な便宜はないから、自炊の用意が必要である。

三、直井温泉は、石北線、安足間(アンタロマ)驛より約二〇粁、ポンアンタロマ川の上流に在り、驛より温泉まで交通の便がないから歩かねばならぬ。この温泉は永山岳、比布岳方面への登山に便利である。

黒　岳　（一九八四・四米）

石狩國　地形圖　廿万―旭　川
五万―ヌタクカムウシュペ山

黒岳は大雪山彙中東北に位し、層雲峡の層雲閣溫泉の對岸から望むと、左端に鋭い山頂を現してゐる。その右に崖を見せてゐるのは桂月岳であつて、地形圖上には其名を記してない。(黒岳と續いて黒岳の西の深い爆裂火口壁上にある山である。）又桂月岳の右に圓い山頂を現してゐるのは凌雲岳（二一三一米）であつて、澄み渡つた蒼空、綠の山、輝く雪溪、力强く描かれた岩の線を層雲峡の幽邃な谷間から眺めた時、明るい心の喜びを覺えるであらう。

黒岳近くの草の急斜面に刻まれた電光形の登山路に喘いで一度山頂に立つと、大雪山彙の山々を間近かに望見して高山の持つ爽快さを味ふことが出來る。頂上の西、桂月岳に至る間は素晴しい崖の谷となつてゐる。桂月岳の向ふに凌雲岳の北尾根の急斜面を眺め、この尾根越に愛別岳が三角形の山頂を聳やかしてゐる。石狩川は、北方脚下に層雲峡の峡谷となつて流れ、ニセイカウ

シュペ山の岩峰は數條の雪溪を谷間に懷いてゐる。石狩川の流を埋めた眞黝な森林の向ふには屛風嶽、武利岳、三國山などを連ねた山脈を眺めるであらう。頂上から少し南方に步を移せば、舊噴火口から出た澤（赤石川）は瀧となつて飛沫をあげて流下するのを眼下に瞰る。

登山の時期及び登路

夏期

層雲峡溫泉から山頂まで約七粁の間、立派な登山路が開かれてゐるので、樂に日歸りの登山が出來る。山頂の西の深い谷に源を發する川に沿ふて、暫らく登つて左の尾根に取付き、美しい森林帶を進めば、標高一五〇〇米附近から岳樺の疎林となり、路は次第に急になるが間もなくお花畑に眼を喜ばせ、眼界は啓けて四圍の山々を指し得るであらう。登りは四、五時間。降りは二、三時間とみればよい。

黒岳小屋は頂上より西に下ること約一粁、桂月岳の南に在る。朝、上川驛に着いて自動車を馳らせて直ぐ登山に就けば、その日の中に小屋に達する事も可能である。

この小屋を中心として大雪山彙の主なる山々への一日行程を擧ぐれは左の如し。

第一案　小屋―北鎭岳―旭岳―北海岳―白雲岳往復―小屋。

【註】或は此の逆コースをとつても好い。白雲岳へは北海岳から往復するのであるが、此往復に約二時間を要す。

第二案　小屋―北鎭岳―比布岳―愛別岳―比布岳―北鎭岳―黑岳小屋（又は旭岳小屋）

第三案　小屋―北海岳―白雲岳―赤岳―烏帽子岳―小屋。

第四案　小屋―北鎭岳又は北海岳―旭岳―旭岳小屋―松山温泉。

第五案　黑岳小屋―北鎭岳―比布岳―愛別岳往復―永山岳―直井温泉。

右の中第一案が最も一般に行はれてゐる。

冬期

積雪期の登山に於ても登路は夏と變らないが、岳樺の疎林附近をシーデポーとした方が好い。黑岳の小屋を中心として歩く場合にも、その日の雪の狀態に依つては相當にスキーも活用出來よ

うが、シュタイグアイゼンの必要な場合の方が多い。一月の登山記錄に依れば層雲峽温泉から頂上迄相當熟練したメンバーで約五時間を要してゐる。五月に於ても登路は同樣であるが、黑岳小屋を中心としてゾンメルシーで歩くのは、實に暢びりした愉快なことであつて、面白い數日をこの山彙の山々に過すことが出來る。

併し五月中旬頃でも、小屋は只その棟を僅かに現してゐるに過ぎない程雪に埋れてゐるし、尙、小屋の構造は積雪期の使用には不便である。

注意事項

一、前述の如く大雪山彙は高山植物の種類實に多く美しいが、濫りに採取する事は禁ぜられてゐる。且つ層雲峽の登山口には監視人が居て登山者に登山票を渡してゐるから、必らず受取つて登らねばならぬ。

二、登山路には飲用水がないから必らず水筒を携帶する必要がある。

三、黑岳小屋の番人は山開き後九月半頃までゐるが、その他の時期に使用する場合は旭川營林署

に前以つて問合せる必要がある。

北　鎭　岳（二二四六米）

石狩國　地形圖　廿万―旭川　五万―ヌタクカムウシユペ山・旭岳

北鎭岳は舊噴火口の北にある頭の圓い山で、大雪山彙中第二の標高を有してゐる。七月中旬頃までならば、頂上附近から凌雲岳の山麓を過ぎる長い雪溪をゾンメルシーで降つて黒岳小屋の下まで來られるが、凌雲岳の南附近からは餘り滑らない。頂上からは、西北に當つて比布岳と、左側に崖を見せた愛別岳の秀麗な姿とが近くに見える。南西に當つて長い裾をひいてゐるのは旭岳で、その前にあるのが熊ヶ岳である。舊噴火口の向ふには北海岳、白雲岳、遠くはトムラウシ山を越して十勝岳への重疊たる山脈を望見するであらう。大雪山彙の山々を一眸の中に收め得るのはこの山を最とする。

北鎭岳より比布岳（左）愛別岳（右）を望む　（大雪山彙）

登山の時期及び登路

夏期

黒岳小屋から平らなお花畑の中の登山路により、舊噴火口から出てゐる赤石川の縁に沿ふて西に進むと舊噴火口壁上に出る。此處から左に噴火口底を望み、有毒温泉の湧出してゐるのを瞰て更に進めば、路は急になり北鎭岳の南の舊噴火口壁上に達する。此處で舊噴火口壁上を巡つてゐる路から岐れて、北鎭岳頂上への路を辿るのである。黒岳小屋から約一時間半とみれば好いだらう。

又旭岳小屋（旭岳の項參照）からならば、旭岳を越して熊ノ平に降り、熊ヶ岳の東南を登つて舊噴火口壁上に出で、更に舊噴火口を右に眺めながら前記の岐路に達す。旭岳小屋から約三時間と見れば好いであらう。

直井温泉からは、永山岳、比布岳を經て、この頂に達することが出來る。比布岳からはその南東にある鋸狀の岩の南を通つて頂上に至るのである。温泉から三、四時間を要す。

冬期

積雪期に於ける登山は黒岳の小屋を根據として夏期同樣の路からか、又は凌雲岳の下の澤を通つて東斜面から行はれるが、嚴冬に於てはスキーの使用に耐えぬ雪の狀態の事が多いので、シュタイグアイゼンの用意は勿論必要である。北斜面からの登山はまだ行はれてゐないが、石狩川を渡り得るならば、後記の愛別岳の場合と同樣にテンマク澤上流に露營して、登る事は相當の興味あることゝ思はれる。

愛別岳（二一一二米）
比布岳（二一九一米）
永山岳（二〇四六米）

石狩國　地形圖　廿万―旭川　五万―ヌタクカムウシュペ山

愛別岳は大雪山彙中北西に在つて、黒岳頂上から之を望むと凌雲岳の北尾根越にそのピラミッド型の山頂を現してゐる。大爆裂火口が北西に向つて口を開いてゐて、其の壁上に比布岳、愛別岳、永山岳の三山が鼎立してゐる。比布岳から北に鎌尾根ともいふ樣な細い尾根が、西側は大爆裂口への崖となつて延びて愛別岳の頂上に至つてゐる。愛別岳から崖は北西に折れ、愛別岳の東及び北斜面は美しい急斜面の線を描いてゐる。比布岳の西に爆裂火口の崖に沿ふて高さにして約一五〇米位降りた所に永山岳の頂上がある。

登山の時期及び登路

夏期

愛別岳に登るには一度比布岳に登つて、尾根傳ひに往復するのである。直井温泉から途中、沼ノ平を右にして登り、約二時間で永山岳の頂上まで達することが出來る。永山岳から爆裂火口を右に見て、高さにして約一五〇米登れば一時間足らずで比布岳に達する。

比布岳から愛別岳へ登るには、愛別岳の南尾根に取付くのである。この尾根に降りる所は相當

の傾斜を有してをり、且前記の如く、尾根の左側は爆裂火口の崖となつてゐて、尾根は割合に細い。比布岳、愛別岳間の往復は本山彙中、最も面白い所である。この往復に約二時間を要す。

黒岳小屋から北鎭岳を越して（北鎭岳の項參照）北鎭岳の西北に露出してゐる鋸狀の岩の南を通り、比布岳へ緩やかな登路を求め得る。黒岳小屋から比布岳迄約二時間半を要す。歸路を黒岳小屋に求めるならば往路と同樣であるが、旭岳小屋に一泊して翌日松山溫泉に降るか、或は永山岳から直井溫泉に降るのも面白い。（北鎭岳旭、岳間の路は北鎭岳の項參照）

冬期

積雪期に於ける愛別岳の登山記錄はまだ見ないが、黒岳小屋から夏期と同樣の登路を求め得るだらう。又、眞勳別（マクンベツ）から入つて白川の上流に、或は石狩川をテンマク澤合流點附近で渡り得るならば、その上流に露營して、愛別岳の北斜面或は東斜面に登路を求めることが出來るだらうと思はれる。

五月に黒岳小屋から北鎭岳を越して比布岳、永山岳への登山は既に行はれた。登路は夏期と同

樣である。北鎭岳の北西の岩の尾根はその南側を通れば樂に通過出來る。

旭岳（二二九〇・三米）

石狩國　地形圖　廿万―旭川
五万―旭岳・ヌタクカムウシユペ山

本道の最高峰で、頂上から西に向つて馬蹄形の爆裂火口があり、頂上の崖の上に立つ時は、この火口底西端附近に硫氣孔の白煙を瞰る。硫氣孔の西南に姿見池と云ふ小さな池があつて、旭岳の小屋はこの池畔に建てられてある。旭岳のすぐ東に二二〇〇米位の山があるが、これは後旭岳といつて頂上に古い噴火口を有してゐる。東北間近かに熊ケ岳（二二〇一米）の、岩石の露出した峰を望み得る。熊ヶ岳の頂上附近は鋭い岩稜となつてゐて、その東には擂鉢の樣な凹地がありこの凹地の東には舊噴火口との間に平らな砂礫の原がある。熊ヶ岳と旭岳との間の小さな平の所を熊ノ平と呼んでゐる。旭岳東斜面は細かい砂礫の斜面で、植物は殆んど無い。夏早い内は大きな殘雪がある。

登山の時期及び登路

夏期

登路としては大体二つある。即ち

(一)黒岳小屋から

(二)松山温泉から

とである。

(一)の登路は北鎮岳を通つて舊噴火口の緣を廻り、熊ヶ岳の凹所の東にある平らな所から熊ノ平に降りる。此處から旭岳の頂上迄約二五〇米の登りであつて、此處から見た旭岳は只、圓い饅頭山の丘と云ふ様な感じに過ぎない。又黒岳小屋から北海岳（北海岳の項參照）を通つて、舊噴火口の緣に沿ひ、前記熊ヶ岳の東の平らな場所に出る事も出來る。黒岳小屋から往復するのならば舊噴火口を一廻りする様に順路をとつた方が面白いだらう。若しゾムメルシーの用意があれば、北海岳を先にして歸りに前記の北鎮岳に廻り、その雪溪を滑る様に路をとつたら面白いと思ふ。

旭岳の東斜面も夏早い内ならばゾンメルシーが使へる。

(二)の登路には松山温泉から、旭岳の西の姿見池畔にある登山小屋に至る迄登山路があり、小屋迄約八時間位、充分一日の行程である。小屋から爆裂火口を左に見て、その緣を登つて約一時間で頂上に達し得らる。此の小屋を中心として黒岳小屋の場合と同じ様に行程を擧げると左の如し。

第一案　旭岳小屋—北鎮岳—比布岳—愛別岳・永山岳往復—北鎮岳—旭岳小屋（又は黒岳小屋）

第二案　旭岳小屋—北鎮岳—黒岳—北海岳—白雲岳往復—旭岳—旭岳小屋。

【註】此の逆コースも可。

第三案　旭岳小屋—旭岳—北鎮岳—比布岳—愛別岳往復—永山岳—直井温泉。

又、層雲峡温泉或は松山温泉を出發點としてこの山彙を横斷するには

層雲峡温泉—黒岳—北鎮岳又は北海岳—旭岳—旭岳小屋(泊)—松山温泉。

この道の逆の行程を採つても好い。

冬　期

冬期登山の記録は少いが、ユコマンペツ澤上流の造材小屋から一月に登頂され、又四月及び五月には黒岳小屋から登頂されてゐる。松山温泉から冬期に登山が行はれてゐないのは、温泉の上の崖を越すのに從來は羽衣ノ瀧の傍を通る、夏期に於ても相當注意を要する悪い路を求めなければならなかつた爲めである。

近年松山温泉から直ちに崖を越す樣に登山路が改修されてはゐるが、これを冬期に登り得るか否かは疑問である。若し試み樣とされる方は、松山温泉に充分問合された方が好いであらう。且つ松山温泉から一日の往復は非常な強行であるから、旭岳の小屋に入るか、又は小屋よりも下の森林帶で露營する必要がある。ユコマンペツ澤上流より行ふとしても、幸に、造材小屋が適當な處にあつて使用の便があればよいが、さもなければ露營の必要がある。

北海岳（二二六一米）

石狩國　地形圖　廿万―旭川　五万―ヌタクカムウシュペ山

大雪山彙の舊噴火口壁上の東南にあつて、頂上は緩やかな砂礫の原である。白雲岳を間近かに眺め、南に忠別川の谷を隔てゝ化雲岳、トムラウシ山、忠別嶽、遠くは十勝岳の噴煙を望み、又少し東に廻つては石狩の連峰を望見することが出來る。北は舊噴火口を隔てゝ北鎭岳、凌雲岳、東北には黒岳の向ふにニセイカウシュペ山の峰々を眺める事が出來る。

登山の時期及び登路

夏　期

黒岳小屋から北鎭岳に向ふ路を暫らく行くと、舊噴火口から出てゐる澤の方に降る路が左に岐れてゐる。之れを降りて噴火口からの澤を渡り、頂上から東北に派出してゐる尾根に取付いて登るのである。小屋から約一時間餘で頂上に達する事が出來る。旭岳小屋からは旭岳を越して舊噴火口の壁上に出で、北海岳へ緩やかな登路を求め得る。旭岳小屋から約三時間

とみれば好い。

冬期

冬期登山としては、黑岳小屋から夏と同樣な路を撰び得る。又この小屋から北鎭岳に行き噴火口を横切つて北海岳に登り、更に白雲岳に行き小屋に歸つて居る記錄がある。約八時間を要してゐる。

白雲岳（二二二九・五米）

石狩國　地形圖　廿万―旭川　五万―旭岳・ヌタクカムウシュペ山

此の山嶺中南東に位する山で、三角點の東に圓い凹地を有してゐる。南麓は高根ヶ原となり平ヶ岳・忠別嶽の方に續いてゐるので、トムラウシ山、石狩岳、十勝岳へ向ふ重要なる通路の一つに當つてゐる。東北に赤岳（二〇七八米）と烏帽子岳とがあるが、赤岳は只廣い尾根の先端に過

ぎない。烏帽子岳は遠くニセイカウシュッペ山を背景として、その尖つた峰を黑岳の右に聳やかしてゐる。

登山の時期及び登路

夏期

登路としては北海岳から岐れて、その東南の平を通つて、この山頂まで路が出來てゐる。これに依ると約二時間位で北海岳から往復出來よう。黑岳小屋へ出るのに赤岳、烏帽子岳を廻るのも面白い。東北に延びてゐる緩やかな尾根を傳つて赤岳に行き、赤岳から澤を越して烏帽子岳に行くのである。烏帽子岳は岩石の堆積した圓錐形の頂を有してゐる。烏帽子岳から小屋迄の路は一寸地形が複雜であつて、立派な築山と云つた感じのする所である。頂上から西南に尾根を少し歩いてから澤に降り、對岸の尾根に登つて噴火口から出てゐる澤に降り、小屋への路を辿れば好い。白雲岳から黑岳小屋までの路を通つて約三時間と見れば好い。

冬期

積雪期の登山に於ても黒岳小屋から略々夏期と同様の登路が求められるが、北海岳の項で述べた樣な道順も採れる。五月に黒岳小屋から北海岳、白雲岳、赤岳、烏帽子岳と廻つて、一日行程としては非常に樂に歩いた記錄もある。

石狩山脈

所謂石狩山脈は大雪山を併せて中央高地と呼ばれるもので、脊梁山脈の略中央を占めてゐる。該山脈は略々南北に走り、その延長百數十粁に及ぶ。その主脈は石狩岳を南端として起り、石狩・十勝の國境を走つて音更山・ユニ石狩岳を連ね、三國山にて更に北見國を併はせて三國に跨る。それより石狩・北見の國境をなし、武華山、武利岳を再起し、暫時西折し、その間、支湧別岳、屏風嶽、ニセイカウシユペ山を傍側に派し、更に北に伸びて北見峠の低所を通過、再度天鹽岳を高めてからその餘波は次第に衰へて天鹽國に低下して行く。

尚この外、主要なる支脈としては、石狩岳近くより南方に分岐する支脈、及び三國山より東方に分岐し北見・十勝の國境をなす支脈がある。前者にはニペソツ山、後者にはクマネシリ嶽の一塊がある。

該山脈は、大雪山彙、十勝山脈が火山系なるに反し、大体古生層より成る。標高二〇〇〇米を

越すものは只ニペソツ山あるのみで、概ね一六〇〇米乃至一九〇〇米級の山が連亙してゐる。
該山脈の特徴として、山勢は概ね十勝、北見側は急峻で、只石狩側は比較的緩やかである。山稜も概して狹く、山稜上は大部分偃松帶の占める所となり、略々一六〇〇米以下から熊笹が猛烈に山稜上に現はれて來る。之がため、斯る高度を有しながら夏期の縦走は相當困難である。
又該山脈に發する水系は、石狩川本流、十勝川本流、音更川、常呂川、湧別川等の諸川であり本道大河の大部は此の山脈に源を發してゐる。又それら諸川の源流附近は本道唯一の針葉樹の密林で、殊に音更川上流流域は曠大なる森林面積を包含してゐる。
川は何れも河勢緩く溯行容易である。さればこそ、登山路の全くなかつた、以前にも比較的早くから登山され、ひいて澤歩きの興味も亦こゝに於て多分に理解されたのである。

石狩岳（一九八〇米）

石狩・十勝 國境

地形圖　廿万―淕別・旭川
五万―石狩岳・ヌタクカムウシュペ山・上支湧別
旭岳・ニペソツ山・十勝川上流

我が國有數の大河の一つなる石狩川源流の發する所、其處に石狩岳が嚴かに聳立し、石狩山脈一群の諸峰を従へて、その盟主を誇つてゐる。
石狩岳は平原からは全然眺められず、大雪山、十勝連峰、ニペソツ山等の高所からでなければその山容に接する事が出來ない。標高に於ては大雪山、日高山脈等の諸峰に劣る所あるも、その深山味に於ては本道隨一である。殊に極く平易に想像して、大雪山のまだ奥に幽隱してゐるのだと考へると、一層その感を深める。而もその兩川の源流附近は一は奥山盆地、他は音更川上流流域として、稀に見る鬱蒼たる針葉樹の大森林地である。石狩岳の頂上より眺めると、音更側は流が全く見られない位一面の蝦夷松、椴松の恐しい迄の密林であることが判る。併し一方、石狩側も川筋の森林地は狹いながら、比較的伐採、搬出に不便なるため濫伐を免れ、今も尚斧鉞の入らざる千古の森林を殘してゐる。
扨て、石狩岳の神祕境が一般の注意を惹く樣になつたのは、約十數年前のことで、それ迄はわづかに狩獵者が獲物を追つて、或は鱒釣りが、本流筋や或は尾根を越えて北見の國から石狩川に

足を踏入れてゐた程度にすぎない。大正十年前後の頃、本道登山界の先驅者なる小泉秀雄氏等の不撓不屈の踏査に依つて漸くその概括的狀態が公開され、その報告が「山岳」に記載されるや、俄かにその名を認められ、以後登山者の注目する所となり、それより逐年僅かづつながら登られる樣になつた。當時の小さいながらも、その探險氣分を想ふと誠に興味深いものがある。また當時は精密な地圖も發行されず、小泉氏等は自身の踏査を綜合して現在では誤記、不備の點を多々見出されるも、廿万分ノ一位の敬服に値する立派な地圖を作製して登山者に提供せられ、その後、數年陸地測量部の五万分ノ一の地圖が發行せらるゝ迄は之が唯一の地圖で、之に賴る他はなかつたのであつた。

石狩川は河勢極めて緩やかで、大箱、ユーニイシカリ川及びホロカイシカリ川兩合流點間の小さな箱の連續を除いては、通過困難な崖はない。今はその二つの箱の上にも道があるから之に禍される事もなく、その他何れの支流も急湍、奔流、懸崖、瀧壺など殆んどなく危險な個所は少い。その上、ユーニイシカリ川合流點からヌタプヤンペツ川合流點迄は河原は廣く、又川緣の稍々餘裕を殘された樹林地や、蕗などの生えた濕地が相當あつて殆んど流に苦しまずに步ける。

又音更川は石狩川よりも更に流れは緩やかで、膝頭迄水に浸つて徒渉すること稀れで、水は極く淺い瀬となつて坦々として流れてゐる。併し河原は石狩川程豐富ではなく、寧ろないと云つた方が當つてゐる。瀬は緩く、箱も全然ないので實に步き好い澤である。だから一日中草鞋をピシャ〳〵させながら步いてゐる日がある。兩川共澤步きを好む人達には、樂しい行程の一部であるに違ひない。そして暢氣な、氣安な澤傳ひが出來て、山に向ふ前の幾日、或は山から下つた歸途の幾日かを澤に送ることが出來る。

既に總論に於て概括された如く、石狩岳も、石狩側の斜面は何處も緩く廣い草地帶であるに反し、音更側の細く鋭く切れて頂上近くまで刻み込まれた溪は、大半峙壁をなし隨所に小瀑を作つてゐる。從つて登路としては石狩川を撰ぶ方が樂で、之を一般の登路とする事は其處にも一つの理由があるのである。

頂上は偃松と岩高蘭、駒草などの高山植物で敷きつめられ、そして庭石大の岩が所々にある。頂上から西北に獨立標高一六八二米の瘤に續く尾根が勾配の緩い屋根の棟の如く派生され、その屋根の兩側に當る部分は、一は前石狩澤と音更山との鞍部へと向つた廣い斜面で、他は大石狩澤

とクチヤウンペツ澤の頭の方向へ下つた廣い斜面である。音更側は偃松に埋れ澤頭は見えない。

前石狩澤　（石狩岳と音更山との鞍部に發しシピナイ川合流點のすぐ下で本流に合する澤）
石狩澤　（獨立標高一六八二米の瘤より發しヌタプヤンペツ川合流點のすぐ下で本流に合する澤）
大石狩澤　（石狩岳頂上より西に出てゐる澤）
ペテトク澤　（獨立標高一八九四米の峯より出る石狩川源流）

登山の時期及び登路

夏期

I 石狩側よりの登路

石狩岳を石狩側から登るには層雲峽温泉を出發點とするのが普通であり、それに又二つの登路がある。即ち

一、本流を溯行し前石狩澤に入つて音更山との鞍部に出て頂上に達するもの
二、大雪山を經て忠別嶽よりヌタプヤンペツ川に下り、石狩澤を溯つて頂上に達するもの

とある。又この二つの登路を交互に組合せて二組の登路が考へられる。而して最も樂な行き方は

往復共に本流を撰ぶものである。先づこの登山路に從ふ日程に就いて説明する。（層雲峽温泉迄は大雪山彙の項參照）

第一日　ユーニイシカリ川合流點小屋
第二日　前石狩澤合流點露營
第三日　前石狩澤の頭に露營
第四日　頂上に登り前日の露營地に引返す
第五日　ユーニイシカリ川合流點小屋
第六日　層雲峽温泉

以前大箱迄ついてゐた小さい路が近年改修されて大きくなり、又昭和四年あたりから更にユーニイシカリ川合流點迄登山路が延されたので、益々この登路による登山が容易になつたのである。路は全部川の右岸についてゐて途中大箱、及びホロカイシカリ川、ユーニイシカリ川兩合流點間は、箱のために崖の大分上に路が通つてゐる。大箱のすぐ上にニセイチヤロマツプ川が流れ込んでゐる。之れを渡る。温泉から此處迄約三時間半。若し大箱を見物するのなら、その少し手

前で、川邊に下りなければならない。それより五、六時間でユーニイシカリ川合流點に着く。その合流點、本流の右岸に旭川營林署所屬の小屋がある。之れに宿泊するも好い。

ユーニイシカリ川合流點より上(カミ)は、もはや登山路なく、全く川筋を行かなければならない。併しその合流點からは急に川幅が開け、河原が廣まつてゐるから上手に河原を拾つて歩けば、又兩岸の平らな樹林地も充分すぎる程あるので、殆んど徒渉しなくて歩ける。ヤンペタツプ川合流點迄は略々四時間、それから二時間程で前石狩澤合流點に着く。この日は非常に樂な行程であるが、前石狩澤に入つても大して好い露營地が見當らないから、この合流點に露營した方が好い。そして木も豐富にあり、枯木、流木も自由に集められるから焚火の心配も無用で、それに廣い磧で露營する氣持も亦格別である。けれども次の日を幾分でも樂にする積りなら、少しでも前石狩澤を登つてゐる方が結構である。

第三日目は前石狩澤の溯りで、この澤は可成り長く、その上倒木が到る所にあつて流を塞いでゐるので非常に歩き難い。迷ひ込む樣な小澤は殆んど入つて來ないが、とにかく一日たつぷりかゝる。厭きずに一日中溯れば水源近く迄登れるから適當な場所で露營する。もう山稜は間近に仰

がれる。鮐はとてもゐるから極度に澤を溯りつめてしまはない中に釣つて、夕餉の珍味にした方が好い。

第四日目は愈々石狩岳頂上に登る日である。澤を何處迄も登つてしまふと音更山との鞍部に出る。一度鞍部に登つてそれから頂上に向ふか、或は直接頂上を目あてにそこの廣い斜面を眞直に手登つても好い。澤の水の盡きるあたりからは、岩高蘭、ツガザクラ等のお花畑であるから、勝氣儘に何處でも登れる。露營地の場所にもよるが、大体二、三時間で頂上に達する事が出來る。降路は登路を戻れば最も安全であつて、往路と同樣本流について下り溫泉迄三日はかゝる。

この歸路の一變化として音更山を登り、場合に依つてはユニ石狩岳迄延してユーニイシカリ川を下つて見るのも面白い。（それに就ては音更山、ユニ石狩岳の項參照）

歸路又は往路に大雪山を登る計畫ならば、歸路を大雪山に採つた方が得策である。それは重い荷を脊負つて大雪山に登る事がつらいばかりでなく、又天候の惡い場合には二〇〇〇米の高所を通る事が比較的難かしくなつて來るからでもある。一方降雨の二、三日も續いて增水烈しい場合は徒渉が危險になつて來るから、斯うした時には安全を期して大雪山を迂廻するに越した事はな

い。とにかく再び本流を下つて同じ路を採るのが面白くないとすれば、この歸路を撰んだら好いと思ふ。そして本流を下るのと所要日數は同じであるからその時に自由に變更出來る。尙その日程を示せば次の通りで、第三日迄は前述と同樣である。

第四日　前石狩澤水源の露營地―石狩岳―石狩澤合流點露營

第五日　ヌタプヤンペツ川上流に露營

第六日　黑岳小屋

第七日　層雲峽溫泉

第四日目は露營地を引拂ひ荷を纏めて頂上に向ふ。頂上から略々西北に派生した餘り目立たない尾根を傳ひ、瘤を二つ越して獨立標高一六八二米の瘤の手前から石狩澤の頭に降る。尾根の上は草地だから樂であり、澤に下りる所は灌木で、その間を十分程潛り下りれば水のチョロ〳〵した流れに出られる。それからは水の流れに沿ふて下るだけで、頂上から二時間餘で石狩澤合流點に出られる。此處で露營。

次の日はヌタプヤンペツを溯るのであるが、その合流點迄は十分位で、半日もかゝれば溯り切

つて終ふ。その上流の水邊に露營。この日、忠別嶽迄行けるが、尾根の上で殘雪でも見つからないと露營出來ないから、日程の遲れたりして急ぎの場合でない限り澤で露營した方が好い。尤も七月中旬前後ならば大抵の場合忠別嶽附近には殘雪がある。ヌタプヤンペツ川の露營地から忠別嶽迄は偃松や灌木の間を巧みに縫つて登り、それより白雲岳、黑岳を經て層雲峽溫泉に下る。

(詳細は忠別嶽及び大雪山彙の項參照)

Ⅱ音更側よりの登路

音更側より石狩岳への登路は、下山の際登つた路をそのまゝ引返す行方ならば、帶廣以東の登山者には汽車の便の上から適當と思ふ。然し既に述べた如く、石狩岳の音更側はひどい崖であり、澤によつては切立つた崖や瀑にぶつかつて動きがとれないことになる。それ故相當熟達した登山者でなければ登攀困難である。

第一日　上士幌―ユウンナイ溫泉

第二日　音更川三股露營

第三日　二股（標高七七六米の符號ある處）露營

第四日　石狩岳登山―露營地に引返す

第五日　第三日の逆

第六日　第二日の逆

第七日　第一日の逆

帶廣から士幌線の終點、上士幌驛に下車、昭和五年よりヌカビラ溫泉迄夏は定期自動車が通ふやうになつた。自動車にて約一時間半、ヌカビラ溫泉との岐れ道で下ろして貰ひ、ヌカビラ橋から一粁弱で對岸に渡る橋が架つてゐる。橋を渡つて約四粁、森林の中を通つて溫泉に着く。自動車の便を籍りないと、汽車の時間の都合上帶廣から溫泉迄は一日では行けない。それにこの道路は北海道特有の一本道で、木蔭も少く元小屋迄は夏の日には相當辛い。そして元小屋泊りとなる。

ヌカビラ橋から溫泉迄の林は、莊園の多いスコットランドの林を想像させる樣な氣持のいゝ林間の小逕である。溫泉に立寄る意思がなければ橋を渡らずに右岸の路を行けば好い。そしてメトセップ川（ホロカ川合流點の一つ下流で右岸より流れ入る支流）合流點に露營する。

次の日はもしも前日溫泉に泊つたのなら、溫泉の裏の路から直ぐ河原に下り地圖の逕の通り徒渉して中洲に出て、關造材事務所の所で右岸の路と合す。今はそこに高谷造材事務所の小屋がある。メトセップ川合流點迄、逕は高い所についてゐて、合流點の所で河原に下りてゐる。メトセップ川を越してホロカ川の合流との中間で逕は對岸に渡る。こゝは徒渉するが、川は淺いから大した事はない。それより逕は三股迄は全部左岸の可成り高い所、瀨音が遙か下に聞える位の所についてゐる。溫泉から約七、八時間位の行程である。その逕も今は改修されて大分よくなつたとのことである。

第三日目、三股からは逕は全く絕え愈々澤歩きになる。この日は一日足を水につけてゐなければならない。河原が殆んどないから水の中を步くより仕方がないが、流が緩漫であるから極く步き易い。二股附近に來ると石狩岳附近の山稜が見え出して來る。二股附近も鮱が澤山釣れる。

第四日目、愈々石狩岳に登る日であるが、この日は澤を間違へない樣、周到に注意しなければならない。さもなくば崖につきあたつて全く難澁してしまふ。比較的音更山寄りの澤が幾分緩く、その中でも最も登り易く有利と考へられる澤は、石狩岳と音更山との鞍部から出る澤である。そ

れより手前、石狩岳直下から來てゐる澤は登攀絶望と見てよい。鞍部から出る澤は上に行くと涸澤になつてしまひ、急峻には違ひないが梯子登り式に登れるからそれ程苦勞はしない。澤形が消えてから偃松の中を一時間程漕いで鞍部に出られる。鞍部まで約四時間強を要す。鞍部より頂上迄は前述の通りである。下山の際、鞍部から澤へ下る時、登つて來た澤にうまく出ないとつまらない浪費をするから、偃松中は充分氣をつけて降る事が大切である。そして元の露營地に戻り、往路と同じ道を通つて上士幌に出る。若し音更側から石狩側へ山越しする心算なら、頂上より前述の如く石狩川本流を下るか、或は忠別嶽を經て、大雪山に迂廻するか、何れかを撰べば好い。

この他に撰べる登路としては、松山温泉からするものがある。松山温泉から化雲岳、化雲岩、忠別嶽を經て、ヌタプヤンペツ川に下る登路をとる。この登路に依つても四日目位に石狩岳頂上に達する。（この登路はトムラウシ山及び忠別嶽の項參照）

冬　期

石狩岳の冬期登山は昭和三年二月初めて達成せられ、その後未だ登られてゐない。（之より前

に春、ゾムメルシーで登つた記錄がある）石狩岳の冬期登山に於ては石狩川を溯る登路があるのみでその他は全然絶望に近い。而もその唯一の登路さへ、當時は大箱の難關を控へ、大箱全体の結氷如何が重大なる要因であつた。こゝが年により、充分凍結せず、水が露はれてゐることがあつて通過困難な場合は、即ち石狩岳登山は放棄しなければならなかつた狀態にあつた。故に大箱結氷如何が絶對的な影響を及ぼし、それらの原因も亦冬期登山を尠からしめた結果を來たしたのである。

然るに現在は登山路がユーニイシカリ川合流點迄つけられた結果、大箱はその右岸の上を通過する事が出來、大箱通過を避けられる樣になつたことと思はれるから、大箱結氷問題は重大性を可成り失ふに至つた。併しながら大箱が通過出來れば非常に勞力と時間とが省けるから、大箱結氷は最後迄重要な要素である。尙それより上流ユーニイシカリ川合流點迄の登山路を利用し得なくとも、その間は全行程に絶對的影響を及ぼす事はなく、反つて全然川筋を進んだ方が樂である。尤もホロカイシカリ川、ユーニイシカリ川兩合流點間の連續した箱の中で、一、二個所雪橋の切れた難場はあるが。それ故に、この登路に就いては最早大きな心配は除かれたと云ふことが